

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

令和 6年  
開設者名

福大病庶138 号  
10月 4日  
学校法人 福岡大学  
理事長 貫 正義

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏名	学校法人 福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

福岡大学病院
--------

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話(092)801-1011

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	○	11リウマチ科		
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、感染症内科は内科として標榜している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科目等」欄において、標榜していない診療科目の各科目、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科								有	
外科と組み合わせた診療科名									
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科		
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科		
診療実績									
消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科は外科として標榜している。									

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科								有	
歯科と組み合わせた診療科名									
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科				
歯科の診療体制									

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	呼吸器科	3	消化器科	4	循環器科	5	形成外科
6	美容外科	7	こう門科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
----	-----	----	----	----	----

40	0	0	0	731	771	(単位:床)
----	---	---	---	-----	-----	--------

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	554	11,528	565.53	看護補助者	66	診療エックス線技師	0	
歯科医師	12	0.3813	12.381	理学療法士	23	臨床検査 臨床検査技師	73	
薬剤師	74	9.4	83.4	作業療法士	8		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	7		その他	0
助産師	66	0	6.6	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	883	14	897	臨床工学士	20	医療社会事業従事者	6	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	46	
歯科衛生士	4	1.4	5.4	歯科技工士	1	事務職員	194	
管理栄養士	12	7.6	19.6	診療放射線技師	49	その他の職員	22	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	51	眼科専門医	8
外科専門医	36	耳鼻咽喉科専門医	5
精神科専門医	10	放射線科専門医	9
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	24
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	5
産婦人科専門医	12	救急科専門医	12
		合計	218

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 三浦 伸一郎 ) 任命年月日 令和 5 年 12 月 1日

2024.2.24 医療安全管理者養成講座終了証(第5425号)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	625.3 人	3.2 人	628.5 人
1日当たり平均外来患者数	1,307.4 人	42.7 人	1,350.1 人
1日当たり平均調剤数		1076.1	剤

必要医師数	144	人
必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	35	人
必要(准)看護師数	360	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	652.26 ㎡	鉄筋コンクリート造	病床数	28 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	64.46	㎡	病床数	2 床
	[移動式の場合]	台数	8	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	16.8 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	488.86 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、エンドキシン測定装置		
細菌検査室	135.13 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動遺伝子検査装置、嫌気ワークステーション、システム生物顕微鏡		
病理検査室	200.49 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	局所排気装置付切出台、新空臓器撮影装置、システム生物顕微鏡		
病理解剖室	132.80 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	電動昇降式解剖台、大型吸引器、骨切断機用骨固定架台		
研究室	5449.16 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	デスクトップパソコン、リアルタイムPCR解析システム		
講義室	372.90 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	2 室	収容定員	400 人
図書室	2246.16 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	13 室	蔵書数	264972 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.7	%	逆紹介率	76.3	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16847		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15260		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1492		人
	D: 初診の患者の数		21766		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況

原 幸治	産業医科大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
手島 康德	〃		〃	無	1
中村 圭佑	〃		〃	無	1
高橋 一久	〃		〃	無	1
和田 秀一	福岡大学病院		院内監査委員	有	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
福岡大学病院ホームページに掲載	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	59	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
2	筋萎縮性側索硬化症	7	60	下垂体前葉機能低下症	83
3	脊髄性筋萎縮症	2	61	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
4	進行性核上性麻痺	15	62	サルコイドーシス	33
5	パーキンソン病	384	63	特発性間質性肺炎	93
6	大脳皮質基底核変性症	5	64	肺動脈性肺高血圧症	16
7	神経有棘赤血球症	2	65	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
8	シャルコー・マリー・トゥース病	1	66	リンパ管筋腫症	18
9	重症筋無力症	84	67	網膜色素変性症	13
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	59	68	原発性胆汁性胆管炎	48
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	14	69	原発性硬化性胆管炎	5
12	封入体筋炎	3	70	自己免疫性肝炎	15
13	多系統萎縮症	18	71	クローン病	215
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	72	潰瘍性大腸炎	315
15	ライゾーム病	20	73	好酸球性消化管疾患	2
16	ミトコンドリア病	6	74	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
17	もやもや病	57	75	非典型溶血性尿毒症症候群	2
18	プリオン病	1	76	筋ジストロフィー	8
19	HTLV-1関連脊髄症	16	77	アイザックス症候群	2
20	特発性基底核石灰化症	1	78	脳表ヘモジデリン沈着症	2
21	全身性アミロイドーシス	26	79	前頭側頭葉変性症	7
22	遠位型ミオパチー	2	80	先天性無痛無汗症	1
23	神経線維腫症	39	81	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
24	天疱瘡	6	82	レノックス・ガストー症候群	2
25	膿疱性乾癬(汎発型)	17	83	ウエスト症候群	1
26	高安動脈炎	9	84	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1
27	巨細胞性動脈炎	4	85	結節性硬化症	5
28	結節性多発動脈炎	3	86	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
29	顕微鏡的多発血管炎	14	87	特発性後天性全身性無汗症	4
30	多発血管炎性肉芽腫症	4	88	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	7
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	89	エーラス・ダンロス症候群	2
32	悪性関節リウマチ	3	90	ウィルソン病	4
33	パージャール病	3	91	抗糸球体基底膜腎炎	1
34	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	92	一次性ネフローゼ症候群	25
35	全身性エリテマトーデス	129	93	紫斑病性腎炎	3
36	皮膚筋炎/多発性筋炎	50	94	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
37	全身性強皮症	42	95	オスラー病	1
38	混合性結合組織病	13	96	閉塞性細気管支炎	1
39	シェーグレン症候群	12	97	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
40	成人発症スチル病	11	98	α1-アンチトリプシン欠乏症	2
41	再発性多発軟骨炎	3	99	偽性副甲状腺機能低下症	2
42	ベーチェット病	33	100	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
43	特発性拡張型心筋症	28	101	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6
44	肥大型心筋症	5	102	プロピオン酸血症	1
45	再生不良性貧血	9	103	尿素サイクル異常症	1
46	自己免疫性溶血性貧血	2	104	原発性高カイトロミクロン血症	1
47	特発性血小板減少性紫斑病	27	105	脂肪萎縮症	1
48	原発性免疫不全症候群	4	106	慢性再発性多発性骨髄炎	1
49	IgA腎症	49	107	強直性脊椎炎	3
50	多発性嚢胞腎	25	108	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
51	黄色靱帯骨化症	5	109	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
52	後縦靱帯骨化症	43	110	後天性赤芽球癆	2
53	広範脊柱管狭窄症	7	111	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
54	特発性大腿骨頭壊死症	56	112	嚢胞性線維症	2
55	下垂体性ADH分泌異常症	11	113	IgG4関連疾患	2
56	下垂体性PRL分泌亢進症	10	114	好酸球性副鼻腔炎	12
57	クッシング病	2	115	進行性ミオクローヌステんかん	1
58	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4	116	特発性多中心性キャッスルマン病	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	116
合計患者数(人)	2,493

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療	重症患者初期支援充実加算
医療情報取得加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
医療DX推進体制整備加算	ハイリスク妊娠管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1入院基本料)(入院栄養管理体制加算)	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1入院基本料)	総合評価加算
臨床研修病院入院診療加算	術後疼痛管理チーム加算
救急医療管理加算	後発医薬品使用体制加算1
超急性期脳卒中加算	バイオ後続品使用体制加算
妊産婦緊急搬送入院加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算2	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	データ提出加算2
急性期看護補助体制加算(25対1(5割以上)) (夜間100対1急性期看護補助体制加算) (看護補助体制充実加算)	入退院支援加算1、3(地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
看護職員夜間12対1配置加算1	認知症ケア加算1
看護補助加算2(50対1)(看護補助体制充実加算)	せん妄ハイリスク患者ケア加算
療養環境加算	精神疾患診療体制加算
重症者等療養環境特別加算	精神科急性期医師配置加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料1(救急体制充実加算2、小児加算あり)
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料2(小児加算あり) (算定上限日数に関する基準、早期栄養介入管理加算)
摂食障害入院医療管理加算	特定集中治療室管理料1(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)
がん診療連携拠点病院加算	特定集中治療室管理料5(早期離床・リハビリテーション加算あり) (算定上限日数に関する基準、小児加算、早期栄養介入管理加算)
栄養サポートチーム加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)
医療安全対策加算1	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料(成育連携支援加算))、(新生児集中治療室管理料)
感染対策向上加算1(指導強化加算)(抗菌薬適正使用体制加算)	新生児治療回復室入院医療管理料
患者サポート体制充実加算	小児入院医療管理料1(注2プレイールーム加算あり) (養育支援体制加算、時間外受入体制強化加算1)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料 注3(がん専門管理栄養士が栄養指導を行う)	ニコチン依存症管理料
植込型除細動器移行期加算(※心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
遠隔モニタリング加算(※注5 心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	ハイリスク妊産婦連携指導料1
高度難聴指導管理料	ハイリスク妊産婦連携指導料2
糖尿病合併症管理料	がん治療連携計画策定料
がん性疼痛緩和指導管理料	がん治療連携管理料
難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	認知症専門診断管理料
がん患者指導料イ	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導料ロ	外来排尿自立指導料
がん患者指導料ハ	プログラム医療機器等指導管理料(高血圧症治療補助アプリを用いる場合)
がん患者指導料ニ	薬剤管理指導料
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料1
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	医療機器安全管理料2
糖尿病透析予防指導管理料	救急患者連携搬送料
小児運動器疾患指導管理料	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物住居者訪問看護・指導料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	在宅血液透析指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
腎代替療法指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
二次性骨折予防継続管理料3	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
下肢創傷処置管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	骨髄微小残存病変量測定
外来腫瘍化学療法診療料1	造血管腫瘍遺伝子検査
外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	遺伝学的検査
外来腫瘍化学療法診療料1(がん薬物療法体制充実加算)	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
B R C A 1 / 2 遺伝子検査	内服・点滴誘発試験
がんゲノムプロファイリング検査	C T 透視下気管支鏡検査加算
先天性代謝異常症検査	経気管支凍結生検法
抗H L A抗体(スクリーニング検査)及び抗H L A抗体(抗体特異性同定検査)	経頸静脈的肝生検
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ポジトロン断層撮影
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合(イ以外の場合))
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
検体検査管理加算(IV)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合(イ以外の場合))
国際標準検査管理加算	冠動脈C T 撮影加算
遺伝カウンセリング加算	外傷全身C T 加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	心臓MR I 撮影加算
植込型心電図検査	C T 撮影及びMR I 撮影
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	肝エラストグラフィ加算
胎児心エコー法	血流予備量比コンピューター断層撮影
ヘッドアップティルト試験	乳房MR I 撮影加算
人工臓臓検査、人工臓臓療法	小児鎮静下MR I 撮影加算
長期継続頭蓋内脳波検査	頭部MR I 撮影加算
長期脳波ビデオ同時記録検査1	大腸C T 撮影加算
終夜睡眠ポリグラフィー(1及び2以外の場合 安全精度管理下で行うもの)	画像診断管理加算4
脳波検査判断料1	遠隔画像診断
単線維筋電図	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
神経学的検査	無菌製剤処理料
補聴器適合検査	外来化学療法加算 1
ロービジョン検査判断料	連携充実加算
コンタクトレンズ検査料 1	心大血管疾患リハビリテーション料 (I) 【初期加算含む】
小児食物アレルギー負荷検査	脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 【初期加算含む】

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	自家脂肪注入
運動器リハビリテーション料(Ⅱ)【同基準Ⅰの届出をもって代えることができる】	組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
リンパ浮腫複合的治療料	人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
救急患者精神科継続支援料	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
認知療法・認知行動療法1	椎間板内酵素注入療法
精神科作業療法	緊急穿頭血腫除去術
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	内視鏡的下脳腫瘍生検
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	内視鏡的下脳腫瘍摘出術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
医療保護入院等診療料	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
硬膜外自家血注入	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	角膜移植術・内皮移植加算
導入期加算3	羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)
透析液水質確保加算	緑内障手術(流出路再建術) イ 眼内法 ロ その他のもの
慢性維持透析濾過加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
LDLアフェレシス療法における血漿交換療法	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
移植後抗体関連拒絶反応における血漿交換療法	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
ストーマ合併症加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
一酸化窒素吸入療法	網膜再建術
心不全に対する遠赤外線温熱療法	植込型骨補聴器(直接振動型)植込術
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	耳管用補綴材挿入術
センチネルリンパ節加算	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
人工中耳植込術	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	内視鏡下筋層切開術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	経皮的冠動脈形成術
経鼻内視鏡下副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	経皮的冠動脈ステント留置術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	胸腔鏡下弁形成術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	胸腔鏡下弁置換術
乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対するもの)	経カテーテル大動脈弁置換術
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	経皮的僧帽弁クリップ術
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下に伴うもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	経皮的中隔心筋焼灼術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
気管支バルブ留置術	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
胸腔鏡下肺切除手術(区域切除)(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いる場合)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
同種死体肺移植術	経皮的大動脈遮断術
生体部分肺移植術	経皮的下肢動脈形成術
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	ダメージコントロール手術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	同種死体腎移植術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	生体腎移植術
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	膀胱水圧拡張術、ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除術を伴うもの)	尿道狭窄グラフト再建術
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	埋没陰茎手術
体外衝撃波胆石破砕術	精巣温存手術
腹腔鏡下肝切除術	陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
体外衝撃波膵石破砕術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	腹腔鏡下膣断端挙上術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
同種死体膵島移植術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
内視鏡的小腸ポリープ切除術	子宮付属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣症候群患者に対するもの)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胎児輸血術
腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	臍帯穿刺
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	体外式膜型人口肺管理料
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	輸血管管理料(I)
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	貯血式自己輸血管理体制加算(※輸血管管理料の加算)
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
同種クリオプレシペート作製術	歯科外来診療医療安全対策加算2
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	歯科外来診療感染対策加算4
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	地域歯科診療支援病院入院加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理課加算及び歯科治療時医療管理料
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	医療機器安全管理料(歯科)
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房切除術)	口腔細菌定量検査
麻酔管理料(Ⅰ)	有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
麻酔管理料(Ⅱ)	精密触覚機能検査
麻酔管理料 周術期薬剤管理加算	睡眠時歯科筋電図検査
放射線治療専任加算	歯科口腔リハビリテーション料2
外来放射線治療加算	歯周組織再生誘導手術
体外照射呼吸性移動対策加算	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
高エネルギー放射線治療	クラウン・ブリッジ維持管理料
1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)	歯科技工士連携加算1
強度変調放射線治療(ⅠMRT)	CAD/CAM冠
画像誘導放射線治療(ⅠGRT)	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	
病理診断管理加算(2)	
悪性腫瘍病理組織標本加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	
入院ベースアップ評価料(92)	
看護職員処遇改善評価料(68)	
地域歯科診療支援病院歯科初診料	
歯科診療特別対応連携加算	



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心臓リハビリテーションと心肺運動負荷検査(CPX)による心血管疾患の予後予測	北島 研	卒後臨床研修センター	1,300,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
HDL機能を利用した心臓リハビリテーションによる心血管疾患予後因子の解明	北島 研	卒後臨床研修センター	1,300,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌から動脈硬化を予測する：AIを用いた挑戦	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	2,470,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	4,680,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
非侵襲連続血圧計による心筋酸素消費量指標開発と最適な運動処方アルゴリズムの実用化	末松 保憲	循環器内科	1,820,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
抗がん剤の心毒性に対するbeta-arrestin-biased orthosteric ligandsの有用性	三浦 伸一郎	循環器内科	1,820,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」診断基準・治療指針改訂プロジェクト	平井郁仁	消化器内科	200,000	補 厚生労働省
クローン病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	平井郁仁	消化器内科	500,000	補 文部科学省
炎症性腸疾患におけるアドレノメデュリンの病態意義の解明と予後予測因子としての応用	芦塚伸也	消化器内科	700,000	補 文部科学省
炎症性腸疾患患者の5-ASA不耐症例に関する検討	久能宣昭	消化器内科	500,000	補 公益財団法人 臨床奨励基金
液性免疫解析による免疫チェックポイント阻害剤の新規治療効果予測因子の探索研究	井上博之	呼吸器内科	468,000	補 独立行政法人 日本学術振興会
間質性肺炎の原因と治療法	濱田直樹 (研究代表者)	呼吸器内科	10,000,000	補 公益財団法人 柿原科学技術研究財団

小計12件

動脈硬化、心血管病、CKDに及ぼす不眠症、睡眠時無呼吸症候群の解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	520,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に關与する腸内細菌叢異常を解明する	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における過活動膀胱、夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	650,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	650,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌から動脈硬化を予測する：AIを用いた腸腺	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	2,470,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	4,680,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	23,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
双極性うつ病に対する運動療法の効果	富山 優子	精神神経科	500,000	補	臨床研究奨励基金
統合失調症患者のリカバリーに関する評価及びバイオマーカーについて	浅田 遼	精神神経科	1,000,000	補	臨床研究奨励基金
自殺関連行動後の患者に対する精神科デイケアの効果についての検討	吉村 裕太	精神神経科	700,000	補	臨床研究奨励基金
自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神神経科	2,307,000	補	厚生労働省
オミックスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	堀 輝	精神神経科	20,000	補	科研費 基盤研究 (C)
認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	堀 輝	精神神経科	10,000	補	科研費 基盤研究 (C)

小計14件

交替勤務うつ病労働者の復職に関する多面的研究	堀 輝	精神神経科	1,800,000	補	科研費 基盤研究 (C)
統合失調症に対する併用薬治療行動の向上の検証	堀 輝	精神神経科	390,000	補	AMED
統合失調症の早期診断のエビデンスの創出	堀 輝	精神神経科	1,950,000	補	AMED
自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する法おもん看護実践ガイドラインの開発	衛藤 暢明	精神神経科	182,000	補	科研費 基盤研究 (C)
双極性障害エピゲノムマーカーと薬剤反応性についての検討	菅原 裕子	精神神経科	4,290,000	補	科研費 基盤研究 (C)
ICTと医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究	永光 信一郎	小児科	11,140,000	補	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	永光 信一郎	小児科	18,080,000	補	こども家 庭庁
ギガスクールを活用した子どものメンタルヘルス支援 ―教育・医療連携アプリの開発―	永光 信一郎	小児科	1,400,000	補	独立行政 法人 日本学術 振興会
思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としてのICTを活用した「こころの学校健診」開発研究	永光 信一郎(分 担)	小児科	300,000	補	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究	永光 信一郎(分 担)	小児科	400,000	補	こども家 庭庁
母子保健情報のデジタル化とデータの利活用を推進するための研究	永光 信一郎(分 担)	小児科	200,000	補	こども家 庭庁
ミトコンドリア病の診療水準やQOL向上を目指した調査研究	八ツ賀 秀一(分 担)	小児科	500,000	補	厚生労働 省
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	吉兼 由佳子	小児科	5,000,000	補	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
新生児ウレアプラズマ感染症の病態解析と治療戦略の確立	伊東 和俊	小児科	1,900,000	補	独立行政 法人 日 本学術 振興会

小計14件

希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	廣瀬 龍一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	200,000	補	厚生労働省 (分担)
新規評価システム搭載型高度手術シミュレーター開発と効果検証に関する研究	小幡 聡	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	500,000円	補	独立行政法人 日本学術振興会
力覚フィードバック機能を有する革新的手術支援ロボットの研究開発	上田 雄一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	180,000円	補	文部科学省
MRIの多段面再構成像を用いたC5麻痺発生メカニズムの解明	柴田達也	整形外科	3,770,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
変形性膝関節症手術における神経麻痺の発生メカニズム解明と予防法の開発	石松哲郎	整形外科	4,550,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模施設研究	山本卓明	整形外科	100,000	補	厚生労働省
有限要素法を用いた特発性膝骨壊死における軟骨下骨折の発生メカニズムの解明	土肥憲一郎	整形外科	1,700,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
計算論モデルと脳神経画像解析によるトゥレット症重症化機序の解明	森下登史	脳神経外科	1,100,000	補	文部科学省
てんかん発作伝播における大脳基底核ネットワーク機能の解明	森下登史	脳神経外科	1,800,000	補	武田科学振興財団
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	今福 信一	皮膚科	1,500,000	補	厚生労働省
内臓脂肪の機能低下に伴う前立腺肥大症発症機序の解明	羽賀 宣博	腎泌尿器外科	1,100,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
一般市民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	中村 信之	腎泌尿器外科	800,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
一般市民における過活動膀胱、夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	坪内 和女	腎泌尿器外科	500,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
逆流性腎症を有する患者における腎障害発症メカニズムの解明と腎機能予測モデルの開発	松岡 弘文	腎泌尿器外科	400,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

小計14件

マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の神経発達障害に関わる分子の同定	漆山大知	産婦人科	1,600,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
産科危機的出血予測AIモデル構築を目指す研究プロジェクト	倉員 正光	産婦人科	1,000,000	補	公益財団法人 柿原科学技術研究財団
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,000,000	補	一般財団法人 貝原守一医学振興財団
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,500,000	補	公益財団法人今井精一記念財団2022年助成事業
抗酸化作用を示すガソトランスミッターウルトラファインバブルを用いた再生幹細胞培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,000,000	補	公益財団法人 柿原科学技術研究財団
アデノウイルス眼感染症の細胞生物学的解析と治療薬剤開発の研究	内尾英一	眼科	1,000,000	補	文部科学省
眼科領域の新型アデノウイルス治療薬剤候補の型別有用性の基礎的および臨床的評価	川村朋子	眼科	1,200,000	補	文部科学省
聴き取りづらい音韻の個人差に対応する新たな補聴方式の開発	坂田俊文	耳鼻咽喉科学	390,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ECVの概念を応用したEOBの細胞内外分布の分離：肝機能と肝腫瘍鑑別診断への応用	吉満研吾	放射線科	1,400,000	補	文科省科研費 基盤研究(C)
肝線維化および肝細胞機能に関するMRIを用いた新たな定量的診断法の開発	高山幸久	放射線科	2,058,410	補	文科省科研費 基盤研究(C)
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	260,000	委	AMED
糖尿病性腎臓病におけるリン代謝とRho-kinaseの意義	川浪大治	内分泌・糖尿病内科	1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病性腎症保護因子PKM2に着目した残存病態の解明と新規治療法の開発	横溝 久	内分泌・糖尿病内科	1,400,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
慢性腎臓病患者の健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	900,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

小計14件

病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関する腸内細菌叢異常を解明する	安野哲彦	腎臓・膠原病内科	4,500,000	補	科研費
最終糖化産物（AGEs）の慢性腎臓病に対する影響を解明する～疫学的視点より～	伊藤建二	腎臓・膠原病内科	4,500,000	補	科研費
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	坪井 義夫	脳神経内科	200,000	補	厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	坪井 義夫	脳神経内科	800,000	委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	坪井 義夫	脳神経内科	500,000	委	厚生労働省
Perry病の病態解明および創薬を目指した新規モデルマウスの作製	三嶋 崇靖	脳神経内科	1,600,000	補	基金分 (基盤研究C)
進行性核上性麻痺における視床下核容積定量と症状、予後の関連性を調査する前向き研究	藤岡 伸助	脳神経内科	700,000	補	基金分 (基盤研究C)
重度パーキンソン病患者における睡眠障害の実態と危険因子の解明	長城 晃一	脳神経内科	800,000	補	基金分 (基盤研究C)
重神経細胞が軸索を1本だけ持つ仕組みの解明	河田 純一	脳神経内科	400,000	補	基金分 (基盤研究C)
消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	山田哲平	消化器外科	1,200,000	補	文部科学省
神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	500,000	補	文部科学省 基盤研究C
重症感染症の重篤化と口腔－腸連関の関連性解明	吉野 綾	歯科口腔外科	1,300,000	補	文部科学省 基盤研究C
口腔-腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP）	喜多 涼介	歯科口腔外科	800,000	補	文部科学省 基盤研究C
人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔-腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	眞野 亮介	歯科口腔外科	1,100,000	補	文部科学省 基盤研究C

小計14件

xCTを介したリンパ管内皮細胞の抗酸化機構解明と口腔扁平上皮癌の転移における意義	橋口 志保	歯科口腔外科	800,000	補	文部科学省 若手研究
ECMOセンター管理を要する新型コロナウイルス感染症患者の口腔内衛生状況の評価	吉野 綾	歯科口腔外科	700,000	補	公益財団法人臨床研究奨励基金
トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳梗塞治療戦略の検証	仲村佳彦	救命救急センター	300,000円	補	独立行政法人 日本学術振興会
新規評価システム搭載型高度手術シミュレーター開発と効果検証に関する研究	小幡 聡	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	2,143,980	補	科学研究費助成事業
希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	田口 智章 小幡 聡(分担)	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	200,000	補	厚生労働省
研究助成寄付金	小幡 聡	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	400,000	補	一般社団法人 日本内視鏡外科学会
悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究：新規良悪性鑑別マーカーの探索	濱崎 慎(代表)	病理学	400,000	補	文部科学省
EmmprinとCD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究	青木 光希子(代表)	病理学	900,000	補	文部科学省

小計8件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

合計90件

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shiga Y, Tashiro K, Miura E, et al.	循環器内科	Association Between Major Adverse Cardiovascular Events and the Gensini Score or Coronary Artery Calcification Score in Hypertensive Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	Cardiol Res 2023年4月;Vol.14(2):p91- p96	Original Article
2	Matsuo Y, Suematsu Y, Morita H, et al.	循環器内科	Development of a Non-Peptide Angiotensin II Type 1 Receptor Ligand by Structural Modification of Olmesartan as a Biased Agonist	Biomedicines 2023年5 月;Vol.11(5),p1486	Original Article
3	Hirata T, Shiga Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Investigating the Association between Coronary Artery Disease and the Liver Fibrosis-4 Index in Patients Who Underwent Coronary Computed Tomography Angiography: A Cross-Sectional Study	J. Cardiovasc. Dev. Dis 2023年7月;Vol.10(7):p301	Original Article
4	Nose D, Matsui T, Otsuka T, et al.	循環器内科	Development of Machine Learning-Based Web System for Estimating Pleural Effusion Using Multi-Frequency Bioelectrical Impedance Analyses	J Cardiovasc Dev Dis 2023年7月;Vol.10(7):p291	Original Article
5	Nose D, Shiga Y, Takahashi R, et al.	循環器内科	Association Between Telomere G-Tail Length and Coronary Artery Disease or Statin Treatment in Patients With Cardiovascular Risks - A Cross-Sectional Study	Circ Rep 2023年7月;Vol.5(8):p338- p347	Original Article

6	Takata K, Imaizumi S, Iwata A, et al.	臨床検査医学	Associations of High-Density Lipoprotein Functionality with Coronary Plaque Characteristics in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis	Biomolecules 2023年8 月;Vol.13(9):p1278	Original Article
7	Ajimu Y, Shiga Y, Hirata T, et al.	部外修練	Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry	J Clin Med 2023年9 月;Vol.12(18):p5987	Original Article
8	Tachibana T, Shiga Y, Hirata T, et al.	部外修練	Association Between the Presence of Coronary Artery Disease or Peripheral Artery Disease and Left Ventricular Mass in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	Cardiol Res 2023年 10月 Vol.14(5):p387-p395	Original Article
9	Mikagi M, Tashiro K, Komaki T, et al.	循環器内科	Association between paroxysmal or persistent atrial fibrillation and hyperuricemia in patients who underwent coronary computed tomography angiography: from the FU-CCTA-AF Registry	Heart Vessels 2023年12月 Vol.38(12):p1451-p1458	Original Article
10	Tashiro K, Komaki T, Ideishi A, et al.	循環器内科	Distinct single spiky component of local abnormal ventricular activity and accurate identification of origin of premature ventricular complexes arising from left ventricular summit	HeartRhythm Case Rep 2023年12月 Vol.10(3):p182-p185	Case report
11	Miura S.	循環器内科	The renin-angiotensin-aldosterone system: a new look at an old system	Hypertens Res 2023年4月 Vol.46(4):p932-p933	Letter

12	Koga T, Hijioka S, Nagashio Y, et al.	消化器内科	Prospective clinical trial of EUS-guided choledochoduodenostomy without fistula dilation for malignant distal biliary obstruction	Endoscopic Ultrasound 2023 9月-10月;Vol.12(5):p409-p416.	Original Article
13	Nagata T, Funakoshi S, Morihara D, et al.	消化器内科	Malnutrition and inflammation status in nonobese patients with inflammatory bowel disease are associated with nonalcoholic fatty liver disease: a retrospective study	Intestinal research 2023 10月;Vol.21(4):p471-p480.	Original Article
14	Fukunaga A, Takata K, Itoh S, et al.	消化器内科	Complete tumor necrosis confirmed by conversion hepatectomy after atezolizumab-bevacizumab treatment for advanced-stage hepatocellular carcinoma with lung metastasis	Clin J Gastroenterol 2023 4月;Vol.16(2):p224-p228	Case report
15	Takata K, Hirai F.	消化器内科	Minocycline-induced black hairy tongue and skin hyperpigmentation	BMJ Case Rep. 2023 4月 18;Vol.16(4):e253811	Case report
16	Ishida Y, Koga T, Tsuchiya N, et al.	消化器内科	Successful removal of a migrated biliary plastic stent using a novel spiral dilator	Endoscopy 2023 12月;Vol.55(S01):E804-E805	Case report
17	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru R, et al.	消化器内科	Resolution of Laryngeal Ulceration with Prednisolone Therapy in a Patient with Crohn's Disease	Internal Medicine 2023 7月 15日;Vol.62(14):p2071-p2075.	Case report
18	Takata K, Nagata T, Matsumoto K, et al.	消化器内科	Two Cases of Rapidly Progressive Fatty Liver Disease due to Pancreatic Exocrine Insufficiency without a History of Surgery	Internal Medicine 2023 9月 15日;Vol.62(18):p2667-p2673.	Case report
19	Tanaka T, Takata K, Miyayama T, et al.	消化器内科	Long-term outcome and eligibility of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma over 3.0 cm in diameter	Scientific Reports 2023 9月 28日;Vol.13(1):p16286. (オンライン)	Case report
20	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, et al.	消化器内科	Disappearance of Hepatocellular Adenoma in a Patient with Cornelia de Lange Syndrome after Treatment with Transcatheter Arterial Embolization	Internal Medicine 2024 6月 1日;Vol.63(11):p1569-p1573.	Case report

21	Nomaru R, Ishida Y, Kitaguchi K, et al.	消化器内科	Preoperatively diagnosed intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas with prominent invasion: a case report	Clin J Gastroenterol. 2023 10月;Vol.16(5):p772- p778.	Case report
22	Nagata T, Takata K, Shakado S, et al.	消化器内科	Amiodarone-induced hepatotoxicity	BMJ Case Rep. 2023 11月1 日;Vol.16(11):e256679. (オンライン)	Case report
23	Takata K, Nakashima Y, Shakado S, et a.	消化器内科	A Case of L-Asparaginase- Induced Severe Hepatic Steatosis With Decreased Serum Cholinesterase Levels	Cureus 2023 12月1 日;Vol.15(12):e49787.(オ ンライン)	Case report
24	Yokoyama K, Kino T, Nagata T, et al.	消化器内科	Hepatitis C Virus-associated Cryoglobulinemic Livedo Reticularis Improved with Direct-acting Antivirals	Internal Medicine. 2023 12月15 日;Vol.62(24):p3631- p3636.	Case report
25	Yamauchi R, Takata K, Yokoyama K,et al.	消化器内科	Partial splenic embolization improved stomal varices in patient with decompensated liver cirrhosis: a case report	Clin J Gastroenterol. 2024 2月;Vol.17(1):p100- p105.	Case report
26	Sakamoto A, Inoue H*, Miyamoto Sh,,et al. *Correspondi ng author.	呼吸器内科	Coxsackievirus A11 is an immunostimulatory oncolytic virus that induces complete tumor regression in a human non-small cell lung cancer.	Sci Rep. 2023 Apr 2023 4 月12日;Vol.13(1):p5924	Original Article
27	Permana GI, Morishita T, Tanaka H, et al.	精神神経科	Microlesion Effect Induced by Electrode Implantation in the Posteroventral Globus Pallidus Interna for Severe Dystonic Tics.	Tremor Other HyperkinetMov 2024年1月 18;14:5,	Case report
28	Sakurai H, Inada K, Aoki Y, et al.	精神神経科	Management of unspecified anxiety disorder: Expert consensus.	Neuropsychopharmacol Rep 2023 6月;Vol.43(2): p188-p194	Original Article
29	Hashimoto N, Yasui- Furukori N, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Change of prescription for patients with schizophrenia and major depressive disorder during admission: Real-world prescribing surveys from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education psychiatric treatment project.	BMC Psychiatry 2023 6月28日;Vol.23(1): p473	Original Article

30	Sakurai H, Takeshima M, Inada K, et al.	精神神経科	Clinical Practice for Unspecified Anxiety Disorder in Primary Care.	PCN Reports 2023 6月28日 ;Vol.2(3)	Original Article
31	Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui-Furukori N, et al.	精神神経科	Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study.	Psychiatry Clin Neurosci 2023 10月 ; Vol.77(19):p559-p568	Original Article
32	Kishi T, Sakuma K, Hatano M, et al.	精神神経科	Newer antidepressant for Japanese adults with major depressive disorder: A systematic review and meta-analysis.	Neuropsychopharmacol Rep 2024 3月 ; Vol.44(1):p216-p220,	Original Article
33	Hamada F, Hori H, Iida H, et al.	精神神経科	Effects of exercise on functional recovery in patients with bipolar depression: A study protocol for a randomized controlled trial.	Metabolites 2023 8月30日 ;Vol.13(9): p981	Original Article
34	Sampson E, Mills NT, <u>Hori H</u> , et al.	精神神経科	Exploratory analysis of the effects of celecoxib on cognitive function in vortioxetine treated patients with major depressive disorder in the PREDDICT study: A randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial.	J Clin Psychiatry 2023 10月4日 ;Vol.84(6): p14829	Original Article
35	Hawighorst A, Knight MJ, Fourrier C, et al.	精神神経科	Cognitive improvement in patients with major depressive disorder after personalised multi domain training in the CERT-D study.	Psychiatry Res. 2023 12月 ;Vol.330:115590	Original Article

36	Onitsuka T, Okada T, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Combination Psychotropic Use for Schizophrenia With Long-Acting Injectable Antipsychotics and Oral Antipsychotics: A Nationwide Real-World Study in Japan. / (収載誌名 2023 Jul-Aug . 収載誌IF:2.9)	J Clin Psychopharmacol 2023 7月-8 月;Vol.43(4):p365-p368	Original Article
37	Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui- Furukori N, et al.	精神神経科	Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study.	Psychiatry Clin Neurosci 2023 10月 ; Vol.77(10):p559-p568	Original Article
38	Morishita T, Sakai Y, <a href="#">Iida H</a> , et al.	精神神経科	Precision Mapping of Thalamic Deep Brain Stimulation Lead Positions Associated With the Microlesion Effect in Tourette Syndrome.	Neurosurgery 2023 10月1 日;Vol.93(4):p875-p883	Original Article
39	Asada R, Hori H, Iida H Kawasaki H	精神神経科	Benzodiazepine withdrawal catatonia after discontinuing midazolam in young patient with intellectual developmental disorder: A case report.	Asian J Psychiatr. 2023 11 月;Vol.89:103768	Case report
40	Shinno K, Nagamitsu S.	小児科	Toward the Goal of Leaving No One Behind: Orthostatic Dysregulation.	JMA journal 2023 7月14日 ;Vol.6(3) p334-p336	Original Article
41	Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, et al.	小児科	Scalp EEG-recorded high-frequency oscillations can predict seizure activity in Panayiotopoulos syndrome	Clinical neurophysiology 2023 12月Vol.156p106- p112	Original Article
42	Kubota K, Nagakura KI, Ejiri Y, Sato ,et al.	小児科	Natural history of cow's milk allergy in children aged 6-12 years	Pediatric allergy and immunology 2023 12月 ;Vol.34(12) e14064	Original Article
43	<a href="#">Shiraishi T</a> , Midorikawa K, Miyahara S,et al.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	The history of Japanese lung transplantation: the unique pathway to establishing the program and its initial success.	2023 9月28 日;Vol.15(9):p5204-p5212	Original Article

44	Ueda Y, Miyahara S, Tokuishu K, et al.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Impact of a pneumatic surgical robot with haptic feedback function on surgical manipulation.	2023 12月18日 Vol.13(1):p22615	Original Article
45	Nakashima H.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Perioperative surgical outcome of video-assisted thoracic surgery for nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.	2024 2月;Vol.54:p70-p75	Original Article
46	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, et al.	整形外科	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects.	Foot Ankle Surg. 2023 4月;Vol.29(3):p208-p212.	Original Article
47	Sasaki S, Hayashi T, Masuda M, et al.	整形外科	Factors Affecting Home Discharge of Older Adults with Cervical Spinal Cord Injury in Japan Regional Population.	Spine Surg Relat Res. 2023 6月9日;Vol.7(6):p482-p487	Original Article
48	Tanaka H, Soejima O, Muraoka K, et al.	整形外科	Prognostic factors and clinical features in metacarpophalangeal joint hyperextension after ligament reconstruction with trapeziectomy: A retrospective cohort study.	J Orthop Sci. 2023 7月;Vol.28(4):p789-p794	Original Article
49	Tanaka H, Muraoka K, Tanaka Y, et al.	整形外科	Suspension arthroplasty using the palmaris longus tendon with a suture button for thumb trapeziometacarpal arthritis: a retrospective observational study.	J Orthop Sci. 2023 7月;Vol.28(4):p795-p801	Original Article
50	Miyazaki K, Maeyama A, Matsunaga T, et al.	整形外科	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee.	J Orthop Sci. 2023 10月16日:S0949-2658(23)00268-3	Original Article
51	Hagihara S, Ohta H, Tanaka J, et al.	整形外科	Negative Effects of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis on Bone Fusion after Transforaminal Lumbar Interbody Fusion.	Asian Spine J. 2023 10月;Vol.17(5):p818-p825	Original Article
52	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children.	J Orthop Sci. 2024 1月;Vol.29(1):p224-p229	Original Article
53	Oda T, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	整形外科	Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy: An Anatomic Study.	Orthop J Sports Med.2024 3月18日;Vol.12(3)23259671241233014	Original Article

54	Shibata T, Shibata T, Minokawa S, et al.	整形外科	Arthroscopic margin convergence of large-sized rotator cuff tears does not lead to better clinical outcome compared with conventional repair.	JSES International (JSEINT).in press 2024 3月28日 ; Vol.8(4);p785-p790	Original Article
55	Shimada T, Maeyama A, Hagio T, et al.	整形外科	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 6月19日 ;Vol.7(2):p364-p367	Case report
56	Yoshimura F, Kinoshita K, Seo H, et al.	整形外科	A case of total hip arthroplasty for nonunion after femoral trochanteric fracture surgery with complete breakage of only the compression screw of the InterTAN nail.	Trauma Case Rep. 2023 9月23日 ;Vol.48:100939	Case report
57	Tomonaga S, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Arthroscopic ankle arthrodesis in two alkaptonuria patients.	BMJ Case Rep. 2023 10月25日 ;Vol.16(10):e254300	Case report
58	Hagihara S, Ohta H, Tanaka J, et al.	整形外科	Perineural cyst with intracystic cerebrospinal fluid leakage by traction of nerve root -a case report.	J Orthop Sci. 2023 11月 ;Vol.28(6):p1561-p1565	Case report
59	Kobayashi S, Izaki T, Miyake S, et al.	整形外科	Disseminated gonococcal infection of the shoulder mimicking rheumatoid arthritis.	Shoulder Elbow. 2023 12月 ;Vol.15(6):p658-p663	Case report
60	Tanaka H, Muraoka K, Tanaka Y, et al.	整形外科	Reply to Letter to the Editor by Bargemon et al	Journal of orthopaedic science 2023 7月 ;Vol.28(4):p951	Letter
61	Dai Kawano, Yoshinobu Horio, Takashi Morishita, et al.	脳神経外科	Unique trajectory of transorbital penetration injury determined by the orbital bone anatomy resulting in the minimum neurological deficit: A case report	Interdisciplinary Neurosurgery 2023 9月 ;Vol.33:101782	Case report
62	Morishita T, Sakai Y, Iida H, et al.	脳神経外科	Precision Mapping of Thalamic Deep Brain Stimulation Lead Positions Associated With the Microlesion Effect in Tourette Syndrome	Neurosurgery 2023 10月1日 ;Vol.93(4):p875-p883	Original Article
63	Masato Hayama, Mizuki Sumi, Mau Amako, et al.	心臓血管外科	Isolated anterior mitral valve leaflet cleft repair with minimally invasive cardiac surgery using ORBEYE	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases (Online) 2023 6月5日 ;	Case report

64	Masato Furui1, Kenji Kawajiri, Takeshi Yoshida, et al.	心臓血管外科	Impact and Potential Risk of Acute Myocardial Infarction on Consultation Type During the COVID-19 Pandemic: A Single-Center Experience	Cardiology and cardiovascular medicine 2023 6月19日 ;Vol.7(3): p169-p177	Original Article
65	Masayuki Shimizu , Gumpei Yoshimatsu , Yuichi Morita , et al.	心臓血管外科	Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2	Scientific Reports doi: 10.1038/s41598-023-47485-y.(Online) 2023 11月16日 ; Vol.13(1)20029	Original Article
66	Morita Y, Sakata N, Kawakami R, et al.	心臓血管外科	Establishment of a Simple, Reproducible, and Long lasting Hind Limb Animal Model of Lymphedema	Plast Reconstr Surg Glob Open doi: 10.1097/GOX.00000000000005243.(Online) 2023 9月7日 ;Vol.11(9)e5243	Original Article
67	Masato Furui, Noriko Uesugii, Hitoshi Matsumurai, et al.	心臓血管外科	Relationship between false lumen morphology and entry tear in acute type A aortic dissection	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery doi:10.1093/ejcts/ezad389 (Online) 2024 2月1日 ;Vol.65(2):	Original Article
68	Imafuku S, Korematsu K, Mori N, et al.	皮膚科	Real-world safety and efficacy of amenamevir in patients with herpes zoster in Japan: A postmarketing observational study (REWARD).	J Dermatol.2023 10月 ;Vol.50(10):p1287-p1300 □	Original Article
69	Koga M, Koga K.	皮膚科	Case of secondary milia after regressing lesions of bullous lichen planus.	Int J Dermatol.2023 11月 ;Vol.52(11):p365-p379□	Case report
70	Katayama S, Koga K, Fujimoto M, et al.	皮膚科	Expression of laminin332 $\gamma$ 2 at the invasive front is associated with tumor budding and poor prognosis in cutaneous squamous cell carcinoma.	J Dermatol.2023 12月 ;Vol.50(12):p1585-p1593□	Original Article
71	Koga M, Imafuku S.	皮膚科	Frequency of Acne and Acne Scars in Patients with Neurofibromatosis 1.	Acta Derm Venereol.2024 1月10日 ;Vol.104:adv18621	Others

72	Imafuku S, Okubo Y, Tada Y, et al.	皮膚科	Deucravacitinib, an oral, selective, allosteric tyrosine kinase 2 inhibitor, in Japanese patients with moderate to severe plaque, erythrodermic, or generalized pustular psoriasis: Efficacy and safety results from an open-label, phase 3 trial.	J Dermatol.2024 3月;Vol.51(3):p365-p379	Original Article
73	Tsubouchi K, Arima H, Abe M, et al.	腎泌尿器外科	Effect of Pharmacotherapy for Overactive Bladder on the Pathogenesis of Urinary Tract Infection:A systematic review and meta-analysis	Journal of Urology, 2023 4月;Vol.209(4):p665-p674	Original Article
74	Nakamura N, Aso S, Nakagawa C, et al.	腎泌尿器外科	Efficacy and Safety of Hypoxia-Inducible Factor Prolyl Hydroxylase Inhibitor Therapy for Anemia in Renal Transplantation Patients by Prior Erythropoiesis Stimulating Agent Use.	Transplantation Proceedings, 2023 5月;Vol.55(4):p829-p831	Original Article
75	Tachibana M, Tsubouchi K, Fukuhara Y, et al.	腎泌尿器外科	Factors Related to Overactive Bladder-like Symptoms in Bladder Cancer.	Anticancer Research, 2023 8月;Vol.43(8):p3607-p3613	Original Article
76	Yotsumoto F, Yoshikawa K, Hirakawa T, et al.	産婦人科	Safety and Potential Effect of Intrauterine Infusion of Autologous Adipose Tissue-Derived Regenerative Cells in Patients With Implantation Failure: A Pilot Study.	Curēus (Palo Alto, CA) 2024 3月29日,Vol.16(3):e57220	Original Article
77	Kurakazu M, Kurakazu M, Kiyoshima C, et al.	産婦人科	Clinical Prediction of Retained Products of Conception: Combining Obstetric History and Ultrasound for Improved Accuracy in Severe Postpartum Hemorrhage.	Curēus (Palo Alto, CA) 2024 2月5日;Vol.16(2):e53651	Original Article
78	Kuroki,K	耳鼻咽喉科	Efficacy of beta-hydroxy-beta-methylbutyrate, arginine, and glutamine for the prevention of mucositis induced by platinum-based chemoradiation in head and neck cancer:A phase II study	Clinical Nutrition ESPEN• 2023 10月;Vol.57:p730-p734 DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.clnesp.2023.08.027">https://doi.org/10.1016/j.clnesp.2023.08.027</a>	Original Article
79	Kobayashi A, Izaki R, Fujita H, et al.	眼科	Finite element analysis of changes in tensile strain and deformation by airbag impact in eyes of various axial lengths	Int Ophthalmol 2023 7月;Vol.43(7):P2143-P2151	Original Article

80	Kuroki,K	耳鼻咽喉科	Efficacy of beta-hydroxy-beta-methylbutyrate, arginine, and glutamine for the prevention of mucositis induced by platinum-based chemoradiation in head and neck cancer: A phase II study	Clinical Nutrition ESPEN • 2023 10月; Vol.57:P730-P734 DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.clnesp.2023.08.027">https://doi.org/10.1016/j.clnesp.2023.08.027</a>	Original Article
81	Iwasa H, Nagamachi S, Nakayama S, et al	放射線科	The reproducibility of MTV and TLG of soft tissue tumors calculated by FDG-PET: Comparison between the lower limit by the fixed value SUV 2.5 and that value by 30% of SUVmax	Jpn J Radiol 2023 5月; Vol.41(5):p531-p540	Original Article
82	Fujita N, Ushijima Y, Murayama R, et al	放射線科	Extracellular volume fraction determined by dual-layer spectral detector CT: Possible role in predicting the efficacy of preoperative neoadjuvant chemotherapy in pancreatic ductal adenocarcinoma	Eur J Radiol • doi: 10.1016/j.ejrad.2023.110756, 2023 5月; Vol.162:110756	Original Article
83	Tanaka S, Sato K, Yamamoto R, et al	放射線科	Gallbladder fossa nodularity in the liver typically observed in patients with alcoholic liver disease; comparison with chronic hepatitis C patients	Abdom Radiol 2023 6月; Vol.48(6):p1965-p1974	Original Article
84	Nakaya M, Nakai Y, Yoshimitsu K, et al	放射線科	Intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas: clinical and radiological features compared to those of intraductal papillary mucinous neoplasm	Abdom Radiol • 2023 8月; Vol.48(8):p2483-p2493	Original Article
85	Goto K, Takayama Y, Honda G, et al	放射線科	Risk factors for bleeding in coronavirus disease 2019 patients on extracorporeal membrane oxygenation and effects of transcatheter arterial embolization for hemostasis	Interv Radiol 2023 9月21日; Vol.8(3):p136-p145	Original Article

86	Takayama Y, Sato K, Tanaka S, et al	放射線科	Deep learning-based magnetic resonance imaging reconstruction for improving the image quality of reduced-field-of-view diffusion-weighted imaging of the pancreas	World J Radiol 2023 12月28日;Vol.15(12): p338-p349	Original Article
87	Yamauchi R, Takata K, Yoshimitsu K, et al	放射線科	Partial splenic embolization improved stomal varices in patient with decompensated liver cirrhosis: a case report	Clin J Gastroenterol 2024 2月;Vol.17(1):p100-p105	Case report
88	Oda T, Maeyama A, Yoshimitsu K, et al	放射線科	Soft tissue stabilization of the hinge position for lateral closing-wedge distal femoral osteotomy: an anatomic study	Orthop J Sports Med · 2024 3月18日;Vol.12(3):p1-p9	Original Article
89	Ushijima Y, Okamoto D, Murayama R, et al	放射線科	Effect of lipiodol marking before CT-guided cryoablation on the outcome of sporadic renal cell carcinoma	Diagn Interv Radiol 2024 3月6日;Vol.30(2):p117-p123	Original Article
90	Muta Y, Kobayashi K, Toyoda M, et al.	内分泌・糖尿病内科	Influence of the combination of SGLT2 inhibitors and GLP-1 receptor agonists on eGFR decline in type 2 diabetes: post-hoc analysis of RECAP study.	Front Pharmacol. 15:1358573. 2024 3月27日;Vol.15:1358573	Original Article
91	Morita D, Ito K, Ikeuchi N et al.	腎臓・膠原病内科	A case of crescentic glomerulonephritis induced by afatinib for lung adenocarcinoma	CEN Case Report 2023 5月;Vol.12:p152-p158	Case report
92	Deguchi H, Sakamoto A, Nakamura N et al.	腎臓・膠原病内科	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: a prospective study	Clinical and Experimental Nephrology 2023 6月;Vol.27(6):p574-p582.	Original Article
93	Masutani K.	腎臓・膠原病内科	Progress in Pathological Diagnosis after Kidney Transplantation: Current Trend and Future Perspective	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2023 7月1日;Vol.30:p720-p732	Review

94	Takahashi K, Nishida Y, Yokota S et al.	腎臓・膠原病内科	Casual Serum Triglyceride Concentrations and New-Onset Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease Study	Kidney and Blood Pressure Research 2023 1月-12月;Vol.48:p495-p504.	Original Article
95	Yasuno T, Takahashi K, Tada K et al.	腎臓・膠原病内科	Dysbiosis of Gut Microbiota in Patients with Chronic Kidney Disease	Internal Medicine . 2024 2月1日;Vol.63(3):p347-p352.	Original Article
96	Hiyamuta H, Yamada S, Nakano T et al.	腎臓・膠原病内科	Impact of Electrocardiographic Parameters on Sudden Death in Patients Receiving Maintenance Hemodialysis: Ten-Year Outcomes of the Q-Cohort Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2024 3月1日;Vol.31:p214-p231	Original Article
97	Kakimoto A, Kawazoe M, Kurihara K, et al.	脳神経内科	Impact of non-motor fluctuations on QOL in patients with Parkinson's disease.	Front Neurol . 2023 4月17日 (オンライン) 1149615	Original Article
98	Kurihara K, Fujioka S, Mishima T, et al.	脳神経内科	Evaluation of perception threshold and pain in patients with Parkinson's disease using PainVision®	Front Neurol. 2023 5月5日 (オンライン) 1130986	Original Article
99	Mishima T, Chiu SW, Saiki H, et al.	脳神経内科	Risk factors for developing dyskinesia among Parkinson's disease patients with wearing-off: J-FIRST.	J Neurol Sci. 2023 5月15日 (オンライン) 120619	Original Article
100	Nagaki K, Mishima T, Ohura T, et al.	脳神経内科	Association between physical activity and health literacy in patients with Parkinson's disease: an online web survey.	BMC Neurol . 2023 11月13日;Vol.23(1):p403. (オンライン)	Original Article
101	Takahashi N, Mishima T, Fujioka S, et al.	脳神経内科	Siblings with Cockayne Syndrome B Type III Presenting with Slowly Progressive Cerebellar Ataxia.	Intern Med. 2023 8月;Vol.62(15):p2253-p2259	Case report
102	Yuasa-Kawada J, Kinoshita-Kawada M,	脳神経内科	Neuronal guidance genes in health and diseases.	Protein Cell . 2023 8月21日;Vol.14(4):p238-p261.	Review
103	Naito S, Kajiwara M, Nakashima R et al.	消化器外科	The Safety of Laparoscopic Cholecystectomy in Super-elderly Patients: A Propensity Score Matching Analysis	Cureus•2023 7月18日;Vol.15(7):e42097	Original Article

104	Naito S, Kajiwara M, Nakashima R et al.	消化器外科	Application of Extended Reality (Virtual Reality and Mixed Reality) Technology in Laparoscopic Liver Resections	Cureus・2023 9月1日;Vol.15(9):e44520	Original Article
105	Naito S, Fijikawa T, Kajiwara M et al.	消化器外科	Middle Hepatic Vein-Guided Cranial and Hilar Approach Using a Modified Two-Surgeon Technique in Laparoscopic Extended Left Medial Sectionectomy: A Technical Case Report With Videos	Cureus・2023 4月20日;Vol.15(4):e37865	Case report
106	Kajiwara M, Naito S, Sasaki T et al.	消化器外科	Quick and Easy Application Method of TachoSil® During Laparoscopic and Robotic Liver Resections	Cureus・2023 4月7日;Vol.15(4):e37252	Case report
107	Shibata S, Tagashira H, Nemoto T, et al.	麻酔科	Perineural treatment with anti-TNF- $\alpha$ antibody ameliorates persistent allodynia and edema in novel mouse models with complex regional pain syndrome	J Pharmacol Sci 2023 9月;Vol.153(1):p1-p11	Original Article
108	Yuki Iwashita, George Umemoto (Corresponding Author), Shinsuke Fujioka, et al.	歯科口腔外科	Factors that impact dysphagia and discontinuance of oral intake in patients with progressive supranuclear palsy	Front Neurol. [DOI : 10.3389 /fneur.2023.1259327], 2023 9月13日;Vol.14:1259327	Original Article
109	Shintaro Ishida, Seiji Kondo, Shunsuke Funakoshi, et al.	歯科口腔外科	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study	Hypertens Res. 2023 5月;Vol.46(5):p1122-p1131	Original Article
110	Hiroyasu Ishikura, Junichi Maruyama, Maiko Nakashio, et al.	救命救急センター	Daily combined measurement of platelet count and presepsin concentration can predict in-hospital death of patients with severe coronavirus disease 2019 (COVID-19)	International Journal of Hematology doi.org/10.1007/s12185-023-03555-5 2023 6月;Vol.117(6):p845-p855	Original Article
111	Yoshihiko Nakamura, Hiroki Hatamoto, Shintaro Yamasak, et al.	救命救急センター	Comparison of the cytokine adsorption ability in continuous renal replacement therapy using polyethyleneimine-coated polyacrylonitrile (AN69ST) or polymethylmethacrylate (PMMA) hemofilters:a pilot single-center open-label randomized control trial	European Journal of Medical Research https://doi.org/10.1186/s40001-023-01184-6 2023 6月30日;Vol.28(1):p208	Original Article

112	Shinichi Morimoto, Kentaro Muranishi, Yoshito Izutani, et al	救命救急センター	Assessment of the prognosis, frequency, and isolated bacteria in ventilator-associated pneumonia among patients with severe coronavirus disease 2019 pneumonia: A single-center retrospective	Journal of Infection and Chemotherapy 30:499-503, 2024 doi.org/10.1016/j.jiac.2023.12.003 Available online 12 December 2023  2024 6月;c30(6):p499-p503	Original Article
113	Kentaro Muranishi, Mao Kinoshita, Keita Inoue, et al.	救命救急センター	Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine	Vaccines 2023 12月20日;Vol.12(1):p5	Original Article
114	Yuichi Shibui, Satoshi Obata, Ryuichi Hirose, et al.	総合周産期母子医療センター 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 小児科	A case of sacrococcygeal teratoma associated with antenatally acquired urethrovaginal fistula and hydrocolpos	Surg Case Rep. (オンライン)  2023 10月31日;Vol.9(1)	Case report
115	Shota Okutsu, Yoshifumi Kato, Hiroaki Takeoka, et al.	総合診療科	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholestrolemia.	Scientific Reports 2023 5月:Vol.13(1):8292	Original Article
116	Hidetaka Deguchi, Atsuhiko Sakamoto, Nobuyuki Nakamura, et al	総合診療科	Antibody acquisition after second and third SARS-CoV-2 vaccinations in Japanese kidney transplant patients: a prospective study.	Clin Exp Nephrol 2023 6月:Vol.27(6) :p574-p582	Original Article
117	Katayama S, Koga K, Fujimoto M, et al	病理部	Expression of laminin332 $\gamma$ 2 at the invasive front is associated with tumor budding and poor prognosis in cutaneous squamous cell carcinoma	J Dermatol, 2023, 12月 50(12):p1585-p1593,	Original Article
118	Koga T, Ishida Y, Hamada Y, et al.	病理部	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abd Radiol, 2023, 3月 48(3):p902-p912,	Original Article
119	Aoki M, Tsunoda T, Koga K et al	病理部	MMP-2 Regulation of Emmprin on Tumour Cells and CD73 on Fibroblasts During Tumour-Stromal Interaction.	Anticancer Res, 2023年8月 57(1):23-34,	Original Article
120	Katayama S, Koga K, Fujimoto M, et al	病理部	Expression of laminin332 $\gamma$ 2 at the invasive front is associated with tumor budding and poor prognosis in cutaneous squamous cell carcinoma	J Dermatol,  202312 月;Vol.50(12):p1585-p1593	Original Article

121	Koga T, Ishida Y, Hamada Y, et al.	病理部	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abd Radiol, 2023 3月;Vol.48(3):p902- p912	Original Article
122	Aoki M, Tsunoda T, Koga K et. al	病理部	MMP-2 Regulation of Emmprin on Tumour Cells and CD73 on Fibroblasts During Tumour- Stromal Interaction.	Med Mol Morphol, 2023 8 月;Vol.43(8):p3735-p3745	Original Article
123	Nakano T, Nakamura Y, Sato K, et al.	薬剤部	Adrenaline-resistant anaphylactic shock caused by contrast medium in a patient after risperidone overdose: a case report	Journal of pharmaceutical health care and sciences <a href="https://doi.org/10.1186/s40780-023-00292-z">https://doi.org/10.1186/s40780-023-00292-z</a> (オン ライン)  2023 7月12 日;Vol.9(1):p23	Case report
124	Fukuoka K, Yasutaka Y, Murata Y, et al.	薬剤部	Factor Analysis of Fatigue in the Early Stages of Cancer Chemotherapy	YAKUGAKU ZASSHI  2023 11 月;Vol.143(11):p971-p976	Original Article
125	Motomura Y, Hagiwara D, Kamada M, et al.	薬剤部	A 11-year Study of Candidemia Isolates at Fukuoka University Hospital (2011-2021)	Jpn Pharmacol Ther 2023年11月 Vol. 51(11):p1677-p1684	Original Article
126	Atsushi Togawa, Kinuyo Chikamatsu, Akiko Takaki, et al.	感染制御部	Multiple mutations of Mycobacterium intracellulare subsp. chimaera causing false- negative reaction to the transcription-reverse transcription concerted method for pathogen detection	Int J Infect Dis. 2023 8月:Vol.133:p14-p17	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## 2 論文発表等の実績

### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	平田哲夫、三浦伸一郎.	循環器内科	発症・再発予防のためのリスク管理 生活指導	臨牀と研究 2023年 5月 100(5):p60-66	Original Article
2	増田将人, 衛藤暢明	精神神経科	自殺予防. 特集 こんな時どうする? 5W2Hで学ぶ抗うつ薬の使い方.	月刊薬事 2023年4月 65(5):p893-897	Case report
3	衛藤暢明	精神神経科	Patrick Casementにおける失敗から学ぶ. 特集 エナクメント 治療者の(こころ)の視点から.	精神療法 2023年6月 49(3):p332-336	Case report
4	廣田匠吾、堀輝.	精神神経科	遅発性ジスキネジアの発症率とリスク因子について.	臨床精神薬理 2023年4月 26(4); p367-373	Review
5	堀輝、橋本亮太.	精神神経科	統合失調症薬物治療ガイドラインの社会実装に向けた取り組み.	精神科 2023年7月 43(1): p72-77	Review
6	堀輝.	精神神経科	精神科医が伝授する発達障害関係の面談スキルで知っておきたいこと.	産業保健と看護 2023年11月 15(6); p492-498	Review
7	堀輝.	精神神経科	統合失調症、気分障害における運動習慣と生活習慣病について.	精神科治療学 2023年9月 38(9): 1005-1012	Review
8	菅原 裕子、堀輝	精神神経科	気分障害における認知機能評価の有用性と臨床応用. 特集「Measurement Based Psychiatry 評価者尺度の有用性と臨床活用」	臨床精神医学 2023年10月 52(10):p1177-1183	Review
9	菅原 裕子	精神神経科	気分障害における多様性について. 第41回日本社会精神医学会(神戸)シンポジウム2「ダイバーシティ、ジェンダーフリー社会におけるメンタルヘルス」	日本社会精神医学会雑誌 2023年8月 32(3): p227-231	Review
10	菅原 裕子	精神神経科	透析患者の精神疾患の病態に応じた向精神薬の使い方と注意点. 特集「サイコネフロロジー:透析・移植」各論一患者のメンタルヘルス	腎と透析 2024年3月 96(3): p317-321,	Review
11	嶽北佳輝, 諏訪太郎, 池田俊一郎, 他	精神神経科	【統合失調症薬物治療ガイドライン2022】治療抵抗性統合失調症	精神科 2023年7月 43(1):p36-44	Review

12	原田康平	精神神経科	薬物療法と精神分析的 精神療法の役割分担と共同作業— 直接解決と間接解決—	臨床精神薬理 2024年1月 Volume 27, Issue 1, 75 - 81	Review
13	土生川千珠, 村上佳津美, 永光信一郎 他	小児科	COVID-19対策での長期休校措 置前後の小児心身症関連疾患 受診者数の推移	日本小児科学会雑誌 2023年10月 127(10) p1277-1288	Original Article
14	瀬戸上貴資, 太田栄治,伊 東和俊,他	小児科	血清クレアチニン値は超低出生 体重児における慢性腎臓病の早 期発見の指標となるか？	日本周産期・新生児医学 会雑誌 2023年9月 59(2):p219-226	Original Article
15	永光信一郎	小児科	小児科医による思春期のヘルス プロモーション支援	小児歯科臨床 2023年8月 28(8):p6-13	Review
16	永光信一郎	小児科	【ポストコロナ,少子化時代:30年 後の小児医療と人材育成】様々 な領域における小児医療者教育 子どもの心の医療の将来像	小児科診療 2023年7月 86(7):p815-819	Review
17	永光信一郎	小児科	【小児の心身症～いま改めて心 身相関を考える～】小児心身症 を改めて考える 小児心身症と は何か? 臨床的視点から概念 を再考する	小児内科 2023年6月 55(6):p909-912	Review
18	永光信一郎	小児科	【不登校】最低限見逃してはいけ ない疾患・合併疾患の知識	小児科 2023年8月 64(8):p778-783	Review
19	鈴木翔太郎, 高木誠司	福岡大学病院形成外科	各臓器移植の現状 - 皮膚移植	臨床と研究 2024年1月 101(1):56-622	Review
20	小林広昌,吉 永進太郎,福 本博順 他	脳神経外科	前大脳動脈近位部(A1)動脈瘤 の臨床的特徴と治療戦略	脳卒中の外科 2023年8月 (0914-5508)51巻4号 Page292-297	Original Article
21	福本博順,小 林広昌,廣田 篤 他	脳神経外科	下垂体腫瘍術後 30 年目に大量 鼻出血を発症した 内頸動脈仮性動脈瘤の 1 例	脳卒中の外科 2023年11月 (0914-5508)51巻6号 Page508-512	Case report
22	森下登史,安 部 洋	脳神経外科	重度トゥレット症に対する脳深部 刺激療法における現在の課題	機能的脳神経外科 2023年12月 (1344-9699)62巻 Page34- 41	Case report
23	古河裕紀子, 佐藤絵美,筒 井啓太,その 他	皮膚科	頸部に生じた褐色脂肪腫の1例	西日本皮膚科 2023年6月 85(3):p176-179	Case report
24	吉村麻衣,古 賀文二,古賀 佳織,その他	皮膚科	臨床症状と病理組織所見から線 状IgA水疱性皮膚症との鑑別が 困難であった後天性表皮水疱症 の1例	西日本皮膚科 2023年8月 85(4):p272-276	Case report
25	古河裕紀子, 佐藤絵美,筒 井啓太,	皮膚科	皮膚原発腋窩アポクリン癌の1例	西日本皮膚科 2023年8月 85(4):p288-292□	Case report

26	村尾 玲、麻生麻理子、古賀文二、その他	皮膚科	乳児指趾線維腫症の1例 本邦報告21例の検討	西日本皮膚科 2023年10月 ;85(5):p362-365	Case report
27	大久保和貴子、内藤玲子、今福信一	皮膚科	高齢者に生じた水痘再罹患の1例	西日本皮膚科 2023年10月 85(5):p374-377	Case report
28	麻生麻里子、古賀文二、鶴田紀子、その他	皮膚科	脂腺母斑と軟骨母斑を合併した小児腹壁遠心性脂肪萎縮症の1例	西日本皮膚科 2023年12月 85(6):p463-465	Case report
29	松田絵奈、佐藤絵美、筒井ゆき、その他	皮膚科	顔面に生じた家族性のEruptive vellus hair cysts(EVHC)の1例	西日本皮膚科 2024年2月 86(1):p463-465	Case report
30	筒井ゆき、古賀文二、今福信一	皮膚科	エトレチナートで症状の改善がみられたAQP5遺伝子変異によるボスニア型掌蹠角化症の1例	西日本皮膚科 2024年2月 86(1):p30-34	Case report
31	田中隆行	耳鼻咽喉科	上下顎移動術後の声帯麻痺に関する検討	耳鼻と臨床 2023年11月 (69(6) :p415-418)	Original Article
32	磯部泰司	腫瘍・血液・感染症内科	乳腺リンパ腫の特徴とその治療抵抗性	血液内科 2023年4月 86巻4号 Page494-498	Review
33	中島勇太、高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	多発性骨髄腫におけるMRDの臨床的意義	血液内科 2023年6月 86巻6号 Page835-840	Review
34	茂木愛、高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	血液症候群(第3版)(I)-その他の血液疾患を含めて- II 赤血球の異常 貧血 その他の貧血 放射線による造血障害	別冊 日本臨床 2023年9月 別冊血液症候群I Page430-434	Review
35	中島勇太、高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	血液症候群(第3版)(IV)-その他の血液疾患を含めて- IX リンパ系の腫瘍 悪性リンパ腫と類縁疾患 原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫	別冊 日本臨床 2024年2月 別冊血液症候群IV Page291-294	Review
36	川浪大治 ほか	内分泌・糖尿病内科	4章 「糖尿病性腎臓病」	日本腎臓学会エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン 2023年6月20日	Original Article
37	横溝 久	内分泌・糖尿病内科	糖尿病に合併した「高血圧症」「脂質異常症」の薬剤選択	総合診療 2023年3月 33巻3号 Page268-272	Review
38	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	骨密度測定 骨代謝マーカー	内分泌代謝・糖尿病内科 領域専門医研修ガイドブック 2023年5月30日 pp.56-57, 2023	Original Article
39	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	内分泌疾患診断のための5 Steps Step2一般検査データから内分泌疾患を想起する「肝機能異常・腎機能異常」	臨床雑誌内科 2023年8月 132(2) :242-246,	Review

40	長城晃一、坪井義夫	脳神経内科	【神経難病のある生活者の視点を捉える】神経難病と作業療法 オーバービューパーキンソン病の リハビリテーションを中心に(解説)	作業療法ジャーナル 2023年6月 57巻6号, pp.550-555,	Others
41	藤岡伸助、坪井義夫	脳神経内科	【アンチエイジングと機能性食品 やその成分】脳から見たアンチ エイジングのための機能性食品 やその成分	機能性食品と薬理栄養 2023年6月 16巻6号, 318-323,	Others
42	坪井義夫	脳神経内科	パーキンソン病にみられる認知 機能障害: 背景のリスクおよびレ ビー小体型認知症との境界	難病と在宅ケア 2023年6月 29巻3号, 55-58,	Others
43	三嶋崇靖	脳神経内科	プライマリケア医に必要な情報を まるっと整理 くすりの使い方便 利帳 Parkinson病治療薬.	臨床雑誌内科 2023年4月 131: 1041-1045,	Others
44	萩原大樹、二見真紀人、井上寛子、他	西新病院 薬剤部	オンライン遠隔診療・服薬指導 および薬宅配を一元化するアプ リの有用性と問題点の抽出	臨床と研究 2024年2月 101-(2):106-109	Original Article
45	高橋江里香、田代浩平、志賀悠平、他	薬剤部	冠動脈CT検査時点の高血圧患 者における降圧療法の効果ー血 圧コントロールが不良な場合に 薬剤師が行うことー	臨床と研究 2024年 3月 101-(3):77-80	Original Article
46	藤見幹太	リハビリテーション部	レジスタンストレーニング	循環器内科ー Cardioangiology / 循環器 内科編集委員会 編 2023年 4月 93(4):482-487	Review
47	藤見幹太、三浦伸一郎.	リハビリテーション部	特集 高血圧の最近の治療戦略 ー近未来の展望 運動療法の意 義と実効性の課題克服に向けて	カレントセラピー Current Therapy 2023年5月 41巻5号 Page420-425	Review
48	松崎景子、福嶋伸子、齋藤ちづる、他	西新病院 栄養部	機能性食品を活用した慢性腎臓 病の予防・改善	日本機能性食品医学学会 誌 2023年6月 16(6)(6):p304-308	Review
49	福井奈美子、河野靖、二見真紀人、他	西新病院 看護部	高齢者の総合的機能評価と在 宅医療	臨床と研究 2023年6月 100巻6号 Page735-739	Review
50	野瀬大補、三浦伸一郎、朔啓二郎.	循環器内科	健康寿命延伸へ向けた地域 well-beingの取り組みー Sustainableな効果的プログラ ムの探究ー	臨床と研究 2023年7月 100巻7号 Page864-869	Review
51	北島研、三浦伸一郎.	卒後臨床研修センター	冠動脈疾患	診断と治療 2023年9月 111(9):1189-1195	Review
52	杉原充、三浦伸一郎.	循環器内科	特集 もう迷わない! 循環器薬物 処方ー若手医師へ贈る熟練医 の処方の考え方 II 疾患ごとの薬 物治療の方針について理解する 8. 動脈疾患(大動脈解離・大動 脈瘤・末梢動脈疾患)	Heart View 2023年 1月 27巻12号 Page115-119	Review

53	朔啓二郎、杉山達信、岩田敦、他	循環器内科	新型コロナウイルス感染症流行における大学生感染者と福岡地域感染者の動向	臨床と研究 2024年1月 101巻1号 Page85-89	Review
54	森田英剛、三浦伸一郎、	循環器内科	高齢者の高血圧	循環器疾患 最新の治療 2024-2025 2023年 12月; 383-385	Others
55	藤田昌樹	呼吸器内科	排痰コントロールの重要性	臨床と研究 2023年8月 100:1024-1026,	Review
56	藤田昌樹	呼吸器内科	肺非結核性抗酸菌地用におけるキノロンの意義	結核 2023年7月 98:169-172,	Review
57	藤田昌樹	呼吸器内科	【徹底ガイド 重症感染症のすべて-研修医からの質問302-】各種感染症の管理 肺非結核性抗酸菌症(Q&A)	救急・集中治療 2023年5月 (1346-0935)35巻1号 Page174-178	Review
58	海老規之、藤田昌樹	呼吸器内科	肺癌治療の新時代:化学療法	臨床と研究 2023年8月 100:961-966,	Review
59	萩尾 友宣, 前山 彰, 吉村 一朗, 他	整形外科	関節リウマチの外反母趾変形に対するDLMOの治療成績	九州リウマチ 2023年3月 43(1):p35-39	Original Article
60	篠原 由紀, 松永 大樹, 工藤 悠貴, 他	整形外科	高位脛骨骨切り術後の足部アーチへの影響	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):373-376	Original Article
61	恵濃 大輔, 木下 浩一, 瀬尾 哉, 他	整形外科	肥満症例に対する前方および前外側アプローチ人工股関節全置換術後の周術期合併症	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):415-417	Original Article
62	春島 慎之介, 瀬尾 哉, 木下 浩一, 他	整形外科	3D-porous SQRUM Cupを使用した人工股関節全置換術の中期X線学的評価	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):427-429	Original Article
63	田原健太郎, 前山 彰, 山崎 裕太郎, 他	整形外科	関節リウマチにおける人工膝関節全置換術前後での距骨下関節代償能の検討	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):437-440	Original Article
64	田代 勇人, 石松 哲郎, 宮崎 弘太郎, 他	整形外科	人工膝関節置換術が変形性足関節症のアライメントに及ぼす影響	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):459-461	Original Article
65	片岡 佑太, 萩尾 友宣, 吉村 一朗, 他	整形外科	DLMOにおけるK-wireの至適挿入位置の検討	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):p488-491	Original Article
66	齋藤 文寿, 三宅 智, 柴田 光史, 他	整形外科	肩甲骨関節窩前縁骨折に対する鏡視下骨接合術の治療成績	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):p505-508	Original Article
67	坪根 遼平, 廣田 高志, 村岡 邦秀, 他	整形外科	橈骨遠位端骨折に合併する尺骨遠位端骨折の治療経験	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):p536-539	Original Article

68	大串 秀仁, 中山 鎮秀, 山本 卓明	整形外科	非脂肪性軟部腫瘍の良悪性鑑別における超音波検査の有用性	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p597-602	Original Article
69	岡田 宗大, 柴田 光史, 三宅 智, 他	整形外科	高齢者の外傷性腱板断裂と非外傷性腱板断裂に対する腱板修復術の臨床成績の比較	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p603-606	Original Article
70	橋本 貴美子, 三宅 智, 柴田 光史, 他	整形外科	低い張力下での鏡視下腱板修復術の治療成績	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p607-610	Original Article
71	中島 龍馬, 木下 浩一, 瀬尾 哉, 年	整形外科	術中に大転子Tip fractureを生じた仰臥位人工股関節全置換術の術後成績	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p683-685	Original Article
72	小川 宗一郎, 塩川 晃章, 田中 潤, 他	整形外科	軸椎歯突起後方偽腫瘍の治療経験	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p758-760	Original Article
73	野中 祥太郎, 田中 潤, 萩原 秀祐, 他	整形外科	頸椎椎弓形成術におけるヒトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血剤の有効性の評価	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p761-763	Original Article
74	麻生 大貴, 柴田 達也, 田中 潤, 他	整形外科	腰部脊柱管狭窄症に対する腰椎椎弓切除術(除圧術)の腰痛改善についての検討	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p766-769	Original Article
75	木下 浩一, 恵濃 大輔, 瀬尾 哉, 他	整形外科	疾走中に生じた坐骨結節裂離骨折の1例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 2023年7月 34: p17-20	Case report
76	木下 浩一, 立花 悠, 瀬尾 哉, 他	整形外科	ソフトボールのジャンプ着地で生じた股関節後方脱臼骨折の1例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 2023年7月 34: p21-24	Case report
77	木下 浩一, 森本 浩之, 吉村 陽貴, 他	整形外科	仰臥位前外側進入人工股関節全置換術が行われジャズダンスに復帰した1例	九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 2023年7月 34:p 25-27	Case report
78	山口 真平, 塩川 晃章, 田中 潤, 他	整形外科	脊椎硬膜外海綿状血管腫の2例	整形外科と災害外科 2023年9月 72(3):p582-586	Case report
79	川神 智, 村岡 邦秀, 廣田 高志, 他	整形外科	近位手根列切除を行った変形性手関節症の3例	整形外科と災害外科 2023年9月 72(4):p655-658	Case report
80	飯田 倫太郎, 廣田 高志, 村岡 邦秀, 他	整形外科	手根管開放術を契機に診断された多発性骨髄腫の1例	整形外科と災害外科 2024年3月 73(1):p68-70	Case report
81	柴田光史, 伊崎輝昌	整形外科	【腱板断裂の治療戦略】一次修復を促進させる治療 腱板断裂修復術におけるBone Marrow Stimulation 適応と限界	臨床整形外科 2023年10月 58(10)p1211-1215	Review
82	萩尾 友宣, 吉村 一朗	整形外科	変形性足関節症に対する鏡視下デブリドマン	整形外科 2023年5月 74(6):p709-711	Review

83	山本卓明	整形外科	【非腫瘍性骨関節病変】骨壊死と軟骨下脆弱性骨折	病理と臨床 2023年8月 41(8):p821-826	Others
84	三宅 智	整形外科	【腱板断裂の治療戦略】一次修復を促進させる治療 低い修復張力下での肩鏡視下腱板修復術 Ignore Anatomy, Avoid Tension	臨床整形外科 2023年10月 58(10):p1199-1203	Others
85	自見至郎、大山拓人、高木誠司	福岡大学病院形成外科	マウス腹壁癒痕モデルの新規作成:コラーゲン由来ペプチドによる癒痕抑制効果と筋肉再生	癒痕・ケロイドジャーナル 2023年7月 17:p9-12	Review
86	和田 秀一	心臓血管外科	低侵襲大動脈治療の功罪〜フランスと心臓血管外科医	日仏医学 2023年3月 44(1):p29-38	Review
87	羽賀宣博、坪内和女、岡部雄	腎泌尿器外科	頻尿をきたす泌尿器重要疾患を見破る-尿路性器感染症・尿路結石症・悪性腫瘍	医学のあゆみ 2023年4月 285(3):p 183-187	Review
88	羽賀宣博、岡部雄、宮崎健、他	腎泌尿器外科	抗凝固療法施行中の高度肥満患者(BMI 58.8kg/m <sup>2</sup> )に対するロボット支援膀胱全摘除術	泌尿器外科, 2023年9月 36(9):p 1029-1032	Review
89	中川千鶴、松崎洋吏、山崎史裕、他	腎泌尿器外科	術前診断が困難であった大腿神経原発の後腹膜神経鞘腫	西日本泌尿器科 2024年2月 86(3):p140-145	Case report
90	佐藤圭亮、田中慎二、高山幸久、他	放射線科	上腹部MRIにおける体動アーチファクト低減技術	臨床画像 2023年4月 39(4):p378-387	Original Article
91	長町茂樹	放射線科	脳血流SPECTによる経過観察の有用性	臨床放射線 2023年4月 68(4):p 389-399	Original Article
92	木寺大輔、清水雅司、吉満研吾、他	放射線科	DICOM 対応プリンタにより紙媒体に出力された単純X線画像の表示性能-LCD モニタとの比較	日本放射線技術学会雑誌 2023年8月 79(8):p 775-783	Original Article
93	藤光律子、吉岡晋吾、佐藤雅之、他	放射線科	【明日の業務に役立つ!胆道の臨床検査】胆道の超音波検査その他の胆道疾患のチェックポイント	Medical Technology 2023年6月 51(6): p567-571	Others
94	高山幸久、佐藤圭亮、田中慎二、他	放射線科	【よくわかる肝エラストグラフィ】肝MRE測定の実際-計測上のヒントと注意点	臨床画像 2023年7月 39(7): p816-821	Original Article
95	津田真司、長町茂樹、高山幸久、他	放射線科	FDG-PET/CTで原発病巣の検出が困難であった胃印鑑細胞癌 卵巣転移の1例	臨床核医学 2023年11月 56(6):p82-85	Case report
96	春野綾子、高山幸久、納彰伸、他	放射線科	左右胃大網動脈に異時性に発症したsegmental arterial mediolysisの1例	臨床放射線 2023年12月 68(13):p 1513-1517	Case report
97	本田 学、高山幸久、納彰伸、他	放射線科	子宮円索動脈の塞栓を要した胎盤ポリープの1例	日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023年12月 38(2):p 112-115	Case report

98	神宮綾多郎、清水聡司、吉満研吾、他	放射線科	脳血管3D proton density-weighted black blood MRAのrefocus flip angleに関する検討および3D time of flight法との比較	日本放射線技術学会雑誌 2024年1月 80(1): p56-65	Original Article
99	高山幸久、佐藤圭亮、田中慎二、他	放射線科	II 腹部画像診断におけるMRIの技術革新と挑戦 1. 腹部領域におけるMRI画像診断の最新動向 3) 腹部領域における「AIR Recon DL」の利用経験	INNERVIDION 2024年2月 39(3):p 13-16	Others
100	勝山祐人、藤波清香、矢野めぐみ、他	臨床検査・輸血部	「シグナスオートLD-IF」改良LOTの基礎的性能評価及びLD測定値への影響	医療検査と自動化 2023年11月 48(5):p515-522	Original Article
101	木寺大輔、清水雅司、上野登喜生、他	放射線部	DICOM 対応プリンタにより紙媒体に出力された単純 X 線画像の表示性能-LCD モニタとの比較	日本放射線技術学会雑誌 2023年8月 79.8:p775-783	Others
102	神宮綾多郎、清水聡司、中牟田隆司、他	放射線部	脳血管 3D proton density-weighted black blood MRA のrefocus flip angle に関する検討および 3D time of flight 法との比較	日本放射線技術学会雑誌 2024年1月 80(1):p 56-65	Others
103	木庭 忠士、三橋 泰仁、木村 翔一、他	耳鼻咽喉科 総合周産期母子医療センター 産婦人科	臍帯非切断下気管切開によって出生した先天性喉頭閉鎖症の1例	耳鼻と臨床 2023年9月 69(5):p373-378	Case report
104	井上 亜紗美、敷島 友喜、後藤 美樹、他	薬剤部 医学部小児科 総合周産期母子医療センター	特定型インスリンのみで血糖コントロールに成功した新生児糖尿病の療養指導例	くすりと糖尿病 2023年12月 12(2):p74-78	Others
105	清水星香、中野貴文、江口幸臣、他	薬剤部	Enterococcus faecium菌血症に対するバンコマイシンのPK/PDと臨床的アウトカムの関係性:単施設後ろ向き臨床研究	医療薬学 2023年4月 49(4):p143-152	Original Article
106	福山景子、柿本秀樹、長郷あかね、他	薬剤部	経口抗がん薬服用患者におけるHBV再活性化予防に向けた福岡大学病院薬剤部の取り組み	癌と化学療法 2023年8月 50(8):p885-889	Original Article
107	神崎愛、真島宏太、安高勇氣、他	薬剤部	がん化学療法の制吐療法におけるオランザピンの使用状況と傾眠・口渇の発現状況:単施設後ろ向き臨床研究	九州薬学会雑誌 2023年9月 77:p69-72	Original Article
108	釜田充浩、佐々木史香、萩原大樹、他	薬剤部	薬剤管理サマリーの有用性とQRコードによる調査表返送率の改善効果	日本病院薬剤師会雑誌 2023年11月 59(11):p 1254-1259	Original Article
109	井上亜紗美、敷島友喜、後藤美樹、他	薬剤部	持効型インスリンのみで血糖コントロールに成功した新生児糖尿病の療養指導例	くすりと糖尿病 2023年12月 12(2):p74-78	Case report
110	高橋江里香、田代浩平、志賀悠平、他	薬剤部	冠動脈CT検査時点の高血圧患者における降圧療法の効果～血圧コントロールが不良な場合に薬剤師が行うこと～	臨床と研究 2024年3月 101(3):p341-344	Original Article
111	川田哲史、大津友紀、角康隆、他	薬剤部	COVID-19流行下における薬学部実務実習で実施した緩和ケア実習の教育効果	日本緩和医療薬学会雑誌 2024年3月 17(1):p 9-16	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 福岡大学人を対象とする研究倫理審査委員会標準業務手順書 福岡大学人を対象とする研究倫理審査委員会審査事項、迅速審査事項及び報告事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 福岡大学利益相反に関する規程 福岡大学臨床研究に係る利益相反ポリシー 福岡大学臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について 利益相反 (COI) について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科専攻医研修プログラムに基づく研修 消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修 呼吸器専門研修プログラムに基づく研修 精神科専門医 研修プログラム 小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修 整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修 福岡大学形成外科専門研修プログラムに基づく研修 脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修 心臓血管外科後期臨床研修プログラム 皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修 腎泌尿器外科 専門研修施設群専門研修プログラムに基づく研修 産婦人科後期臨床プログラムに基づく研修 福大病院耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修 放射線科領域モデル専門研修プログラム 2023 年度 腫瘍・血液・感染症内科後期臨床研究プログラムに基づく研修 内科専門医研修プログラムに基づく研修 腎臓・膠原病内科後期臨床研修プログラムに基づく研究 内科後期臨床研究プログラムに基づく研究 脳神経内科後期臨床研修プログラムに基づく研修 消化器外科後期臨床研修プログラムに基づく研修 麻酔科後期臨床研修プログラムに基づく研修 歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修 救命救急センター 後期臨床研修プログラムに基づく研修 小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修 日本プライマリ・ケア連合学会 後期研修プログラム 日本専門医機構 総合診療専門医プログラム 病理専門研修プログラムに基づく研修
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	141.75	人
-------------	--------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	教授	30年	
平井 郁仁	消化器内科 内視鏡部	診療部長	32年	
釈迦堂 敏	消化器内科	副診療部長	38年	
藤田 昌樹	呼吸器内科	診療部長	37年	
川崎 弘詔	精神神経科	診療部長	39年	
永光 信一郎	小児科	診療部長	35年	
佐藤 寿彦	呼吸器・乳腺内分	診療部長	26年	

	泌・小児外科			
山本 卓明	整形外科	主任教授	34年	
高木 誠司	形成外科	診療部長	29年	
安部 洋	脳神経外科	診療部長	28年	
今福 信一	皮膚科	診療部長	32年	
羽賀 宣博	腎泌尿器外科	診療部長	27年	
四元 房典	産婦人科	教授	21年	
内尾 英一	眼科	教授	29年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	教授	38年	
吉満 研吾	放射線科	診療部長	37年	
高松 泰	腫瘍・血液・感染症 内科	診療部長	37年	
川浪 大治	内分泌・糖尿病内 科	診療部長	26年	
坪井 義夫	脳神経内科	診療部長	38年	
長谷川 傑	消化器外科	診療部長	20年	
秋吉 浩三郎	麻酔科	診療部長	28年	
近藤 誠二	歯科口腔外科	教授・診療部長	32年	
石倉 宏恭	救命救急センター	センター長	38年	
鍋島 茂樹	総合診療科	診療部長	34年	
濱崎 慎	病理診断科	診療部長	28年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容 患者急変時の対応(救急蘇生法・AED演習)</p> <p>・研修の期間・実施回数 各研修 1時間、17回/年 実施</p> <p>・研修の参加人数 410名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容 多職種合同オリエンテーション・接遇・マナー研修</p> <p>・研修の期間・実施回数 令和5年度4月実施</p> <p>・研修の参加人数 約100名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>研修の主な内容</p> <p>・福岡大学病院メディカルセミナーについて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度からWEB形式で開催となっていたが、昨年度は対面で2回開催した。</p> <p>・糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会についても同様に対面で2回開催した。</p> <p>【福岡大学病院メディカルセミナー】 第43回「前立腺癌の診断から治療まで」「膀胱がんとは～診断から治療まで～」（腎泌尿器外科） （医師6名、医師以外他20名）</p>

第44回「乳房再建に対する当科の取り組み」「早期介入でより良い結果が期待できる形成外科疾患のあれこれ」「創傷管理up to date～Wound Hygiene～」(形成外科) (医師20名、医師以外23名)

【糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会】

第21回「当院における弁膜症治療への取り組み」「最近の肺高血圧症診療」(循環器内科) (医師9名、医師以外10名)

第22回「脳動脈瘤治療における開頭手術の役割～Hybrid手術と低侵襲手術～」 「脳動脈瘤治療における血管内治療の役割～患者さんに合わせた治療選択～」 「福岡大学病院救命救急センターにおける急性期脳梗塞に対する治療の現状」 (脳神経外科) (医師9名、医師以外4名)

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 伸一郎	
管理担当者氏名	庶務課長 田中 智 医療情報部事務室長 阿部 嘉礼 薬剤部長 神村 英利	医事課長 江淵 猛雄 放射線部技師長 上村 忠久

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	臨床検査・輸血部
		エックス線写真	放射線部 (フィルム庫)
		紹介状	地域医療連携センター
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	<p>当院の診療記録は一患者一番号で管理を行っており、入院診療記録についてはターミナルデジット方式、外来診療記録については患者番号順で保管している。平成21年8月5日から電子カルテシステムを導入しているが、同意書や入院診療計画書、退院サマリなどの紙保管が必要なものについては、紙運用時と同様に保管しており、令和4年3月のタイムスタンプ導入後は全て電子カルテ上に保存している。</p> <p>なお、入院・外来診療記録共に、最終来院日から10年経過したものは廃棄し、タイムスタンプ取込み後の紙については、6か月保管後廃棄としている。</p> <p>また、個人情報を厳格に管理するため、平成29年6月1日に「診療記録取扱内規」を改正し、紙の診療記録の貸出を禁止し、閲覧にて対応している。</p> <p>処方箋について 処方箋 (紙媒体) として3年間保管</p>	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第三十二条に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	庶務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター
			先進医療実績報告 (帳簿)

		績		管理)
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	紙媒体で帳簿管理、またデータ保管
	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 に 掲 げ	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全管理部・感染制御部にて一括管理	
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課	感染制御部、医療安全管理部、庶務課にて一括管理
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	医療安全管理部・感染制御部にて一括管理
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター	臨床工学センターにて一括管理 以下の項目、上記に同じ
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

		保管場所	管理方法		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	医療安全管理部・感染制御部にて一括管理	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部		
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部		
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部		
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部		
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	医療安全管理部・感染制御部にて一括管理	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部		
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部		
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部		
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部		
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部		
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部		
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部		
		職員研修の実施状況	医療安全管理部		
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		
		管理者が有する権限に関する状況	庶務課		
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課				

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> ② 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	事務長 川野 耕
閲覧担当者氏名	庶務課長 田中 智 医事課長 江淵 猛雄 医療情報部事務室長 阿部 嘉礼
閲覧の求めに応じる場所	・病院西別館 3階B会議室
閲覧の手続の概要 閲覧を希望の際には、庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館3階B会議室にて閲覧を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（☑・無）</li> <li>・ 開催状況：年 12 回</li> <li>・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会（1回／月）</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年27回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全院内教育 7 回</li> <li>2. 医療安全実践セミナー 11 回</li> <li>3. 心肺蘇生法・AED講習（看護師） 9回</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故・合併症・重要インシデント事例の検討・医療安全教育の企画。</li> <li>2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネジャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。</li> <li>3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。</li> <li>4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。</li> <li>5. 「安全管理レポート」（毎月）と「医療安全情報」（適時）を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。</li> <li>6. 医療安全管理院内ラウンドを月1回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応</li> <li>6. 感染対策の閲覧に関する基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>・ 感染対策委員会（1回／月）</li> <li>・ 感染制御部会議（1回／月）</li> <li>・ セーフティマネージャー会（1回／月）</li> <li>・ 看護部部内感染対策委員会（1回／月）</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>・ 医療安全院内教育 4回</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。</li> <li>2. 1回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近2週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。</li> <li>3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。</li> <li>4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。</li> <li>5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。</li> <li>6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、感染対策委員会、セーフティマネージャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年25回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>○報道事例から学ぶ医薬品の安全管理</li> <li>○注意すべき医薬品の取扱いについて</li> <li>○医療安全とリスクマネジメント</li> <li>○注射薬剤の基本的知識</li> <li>○薬剤関連インシデント事例と対策</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</li> <li>○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議</li> <li>○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて使用期限や管理状況などを確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 麻薬、覚醒剤原料は業務開始時に理論在庫数と実在庫数が一致するかを確認</li> <li>○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射薬払出システムおよび調剤支援システムによるバーコード認証の導入 特にリスクの高い医薬品の調剤時は薬歴、病名を確認し、処方内容を検討</li> <li>○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進 病棟薬剤業務の推進 処方薬の管理方法を看護師と協議</li> <li>○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 適応外、禁忌などの処方に係る確認及び必要な指導</li> <li>○他施設との連携：がん化学療法レジメンの公開 持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進 薬剤情報ネットワーク (VPCS) の活用</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</li> <li>○Verorab (輸入狂犬病ワクチン)：海外渡航時</li> <li>○ブリリアントブルーG (院内製剤)：黄斑疾患に対する硝子体手術時の内境界膜染色</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>○錠剤などの取り間違いを防止するため、ピッキング鑑査システム (ポリムス) を導入した。</li> <li>○麻薬調剤時に、薬袋 (ラベル)、処方箋、払出処理票の取り違えを防止するために、オーダ番号での確認を徹底するよう周知した。</li> <li>○特定生物由来製品の製造番号を正確に管理するため、特定生物由来製品管理システム (LODMAN) を導入し、使用している。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 22 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：輸液、シリンジポンプの研修を新人医師、看護師を対象に医療安全管理部と共同し実施している。 年2回、中途採用の医師を対象に医療機器についてのセミナーを実施している。 医療機器5項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器）の研修を実施。 新規購入機器の使用方法についての研修。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ、麻酔器、他全36項目の保守点検を院内点検とメーカー点検として計画し実施している。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特にありません</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：医療機器のインシデント情報を医療安全委員会で情報共有し、各部署に対策内容を、セーフティーマネージャー会で報告している。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。</li> <li>2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者（医療安全管理者）の業務の管理指導を行っている。</li> <li>3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。</li> <li>4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。</li> </ol>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（10名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤部薬品情報室に終日担当者を配置して情報の整理・周知を一元化</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○医療安全管理部で申請を受け付け、医療倫理委員会に意見を求め、導入の可否を決定</p> <p>○未承認薬使用症例の副作用情報等を収集し医療安全管理委員会へ報告</p> <p>○適応外・禁忌薬使用について、調剤支援システムを用いて抽出</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者（医療者・患者の家族）、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>① 退院カルテのチェック</p> <p>退院後 14 日以内に、病棟で「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」に沿って、退院カルテの紙保存分と電子カルテ作成分の量的監査を行い、入院カルテ庫へ提出する。</p> <p>入院カルテ庫では病棟でチェックされた「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」を使用してダブルチェックを行い、不備があれば確認を依頼している。また、診療情報管理士が病歴管理システム入力時にも監査を行っており、退院サマリや手術記録などに不備があれば確認・訂正を依頼している。</p> <p>② 入院診療計画書</p> <p>毎日、入院後 6 日目で入院診療計画書が電子カルテ上未提供の患者、または入院中で記載内容に不備がある患者について「入院診療計画書（6 日目作成状況一覧）」を作成し、対象病棟へ配布している。また、翌日（入院後 7 日目）は前日配布したリストを基に再度チェックを行い、未提供の患者については診療情報管理士から病棟師長へ確認の連絡をしている。</p> <p>③ 委譲者オーダ・研修医カルテ未承認督促</p> <p>前週の金曜日までの未承認を抽出し、週 1 回メールにて督促。前月以前の未承認が残っている医師を最優先で督促を行っている。</p> <p>④ カルテ自主点検</p> <p>毎月 1 回医師によるカルテ自主点検を行っており、他科と自科のカルテ入・外各 2 名分を「カルテ記載点検リスト」に基づき点検している。診療情報管理士も同じリストを使用し、評価後にフィードバックを行っている。</p> <p>⑤ 診療情報管理士によるカルテ監査</p> <p>毎日、外来と入院中や退院翌日の患者を数名抽出し、医師の記載内容やインフォームドコンセント記録など「カルテ監査チェックリスト」に基づき監査を行い、医師にフィードバックしており、質的監査の向上に取り組んでいる。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ ）名、兼任（ 8 ）名</p> <p>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p>	

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務

- ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
- イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
- オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。
- カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。
- キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

- ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。
  - イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。
  - ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。
  - エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。
  - オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。
  - カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。
  - キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること
- ・ H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。
  - ・ 院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。
3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。
4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。
5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。
6. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5

年間保存しなければならない。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 307 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 62 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名：産業医科大学病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名：産業医科大学病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況  
当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

別紙参照

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

【医療安全管理責任者】

特定機能病院管理者研修 (令和6年度受講予定)

【医薬品安全管理責任者】

令和6年度医薬品安全管理責任者等講習会

【医療機器安全管理責任者】

特定機能病院管理者研修 (令和6年度受講予定)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価(3rdG; Ver. 2.0)

令和2年2月7日、認定継続

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福岡大学病院ホームページで公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

公益財団法人日本医療機能評価機構への中間報告書提出

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 2023年度 医療安全実践セミナー 予定

- \* 講師の都合により、日程・内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。
- \* **事前申込みが必要**です。申し込み用QRコードをセミナー開催の約1ヶ月前に配布いたします。
- \* 安全研修「1単位」として認定されます。

	予定日	時間	対象 定員	単位	テーマ予定	場所
第1回	5月26日 (金)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第2回	6月23日 (金)	17:30~18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	がんセンター ミーティング室
第3回	7月14日 (金)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第4回	8月8日 (火)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第5回	9月11日 (月)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第6回	10月19日 (木)	17:30~18:30	全職員 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	研修センター B棟 5階 会議室
第7回	11月20日 (月)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第8回	12月22日 (金)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第9回	1月25日 (木)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第10回	2月20日 (火)	17:30~18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	新館 多目的室
第11回	3月22日 (金)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「心肺蘇生法/AED演習」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北

主催 : 医療安全管理部

## 2023年度 医療安全教育 予定

- \* 講師の都合により、日程・内容等が変更になる場合があります。事前にご確認をお願いします。  
 \* 会場での講演は事前申込みが必要です。申込み用紙は、セミナー開催日の約1ヶ月前に部署に配布いたします。

	予定日 On Demand 視聴期間	時間	対象 定員	単位	テーマ予定	場所
第1回	4月25日(火) ～5月15日(月)	60分	全職員	安全 感染	安全 「医療安全2023」 講師:和田 秀一(医療安全管理部部長) 感染 「感染制御2023」 講師:戸川 温(感染制御部長)	On Demand
第2回	5月17日(水) ～5月31日(水)	60分	全職員	安全	安全 「医薬品の安全管理」 講師:今村健(医療安全管理部・医薬品安全管理責任者) 「術後合併症を防ぐ～予防と早期発見～」 講師:秋吉 浩三郎(麻酔科診療部長)	On Demand
第3回	6月2日(金) 講演 6月7日(水) ～6月20日(火) On Demand	17:00～18:00	全職員	安全	安全 「患者安全と、医療の質改善を向上させる心理的安全性を 伴ったチームビルディング」 講師:医療安全管理部 教授 深見 達弥 先生 (島根大学医学部附属病院 病院長補佐)  <b>日本専門医機構共通講習</b>	メディカル ホール  On Demand
第4回	7月4日(火) ～7月18日(火)	30分	全職員	安全	安全 「診療用放射線の安全利用のための研修」 講師:長町 茂樹(医療放射線安全管理責任者)  <b>* 放射線診療従事者受講必須研修</b>	On Demand
第5回	8月1日(火) ～8月14日(月)	30分	全職員	感染	感染 「感染対策への取り組み」 講師:橋本 文代(感染対策担当管理者)	On Demand
第6回	9月5日(火) ～9月19日(火)	30分	全職員	安全	安全 「医療安全の倫理的側面」 講師:今泉 聡(生命医療倫理学)	On Demand
第7回	10月3日(火) 講演 10月11日(水) ～10月24日(火) On Demand	17:00～18:00	全職員	感染	感染 「抗菌薬適正使用への取り組み」 講師:感染制御部 副部長 濱田 洋平 先生 (佐賀大学医学部附属病院)  <b>日本専門医機構共通講習</b>	メディカル ホール  On Demand
第8回	11月14日(火) ～11月27日(月)	60分	全職員	安全	安全 「生体情報監視モニタの看視義務 ～法的責任～」 講師:中村 伸理子(医療安全管理部 弁護士)	On Demand
第9回	12月5日(火) ～12月18日(月)	30分	全職員	感染	感染 「抗菌薬適正使用への取り組み」 講師:塩塚 昭一(感染制御部 薬剤師)	On Demand
第10回	2月5日(月) ～2月16日(金)	30分	全職員	安全	安全 「RRS症例・活動報告」 講師:小吉 里枝(医療安全管理部 副部長)	On Demand

2月22日(木)～3月5日(火) 予定

全職員

第1回～第10回 医療安全教育On Demand視聴

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 福岡大学病院長選考規程（平成31年1月制定、4月施行） 福岡大学病院長候補者選考会議規程（平成31年1月制定、4月施行） 福岡大学病院長候補者選考実施細則（平成31年1月制定、4月施行） 福岡大学病院長に求められる資質・能力について（選考基準） 医療法第十六条の三第1項各号に掲げる事項の実施その他の特定機能病院の管理及び運営に関する業務の遂行に関し必要な能力及び経験を有する者。</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 福岡大学病院公式HPにて公表を行い、公募している。</li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 福岡大学病院公式HPにて公表</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
	別紙参照			有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・ 合議体の主要な審議内容                  福岡大学病院診療部長会                  (1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項                  (2) 病院運営に関する事項                  (3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況                  医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有・無 )</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有・無 )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
	別紙参照		

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有  無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容  
福岡大学病院長職務権限規程（令和元年7月制定、8月施行）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。立案された事業計画は、それぞれの関連委員会にて審議され、その後、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は関連部署にて実施される。診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

三浦病院長：2023年度特定機能病院管理者研修  
病院長を対象としたマネジメント研修（厚生労働省医政局）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・公表の方法： 病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
原 幸治	産業医科大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
手島 康德	〃		〃	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
中村 圭佑	〃		〃	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
高橋 一久	〃		〃	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
和田 秀一	福岡大学病院		院内監査委員	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
内部監査室 平成18年4月1日設置
- ・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  )
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況     理事会</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年13回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年13回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 福岡大学病院安全管理マニュアル、電子カルテインフォメーション、医療安全ポケットマニュアルに記載している。</li></ul>

## 福岡大学病院長候補者選考会議 委員名簿

職 名	氏 名	選定理由	委員長	特別の 関係
福岡大学副学長	田 中 守	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名した者	○	有
福岡大学医学部長	小 玉 正太	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第2号に基づく役職指定		有
福岡大学経済学部長	渡 邊 淳一	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名した文系の学部長		有
福岡大学スポーツ科学部長	米 沢 利広	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名した理系の学部長		有
福岡大学大学院医学研究科長	松 永 彰	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第4号に基づく役職指定		有
福岡大学病院長	岩 崎 昭憲	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第5号に基づく役職指定		有
福岡大学病院事務長	川 野 耕	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第6号に基づく役職指定		有
福岡大学病院看護部長	甲 斐 純美	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第7号に基づく役職指定		有
福岡大学病院呼吸器内科診療部長	藤 田 昌樹	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授		有
福岡大学病院消化器外科診療部長	長 谷 川 傑	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授		有
福岡大学病院心臓血管外科診療部長	和 田 秀一	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第8号に基づき診療部長会構成員のうちから互選により選出された教授		有
福岡市副市長	荒 瀬 泰子	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有している）		無
産業医科大学病院長	田 中 文啓	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（特定機能病院の病院長として医学・医療安全について豊富な経験等を有している）		無
九州大学病院長	中 村 雅史	福岡大学病院長候補者選考会議規程第3条第1項第9号に基づき学長が委嘱する学外有識者（特定機能病院の病院長として医学・医療安全について豊富な経験等を有している）		無

任期：令和5年7月1日～令和5年11月30日

診療部長会名簿

氏名	委員長	職種	役職	備考
三浦 伸一郎	○	医師	病院長	
長谷川 傑		医師	副病院長	
平井 郁仁		医師	副病院長	
秋吉 浩三郎		医師	副病院長	
甲斐 純美		看護師	副病院長(看護部長)	
川野 耕		事務職員	事務長	
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長	
川浪 大治		医師	内分泌・糖尿病内科部長	
杉原 充		医師	循環器内科部長	
平井 郁仁		医師	消化器内科部長	兼務
藤田 昌樹		医師	呼吸器内科部長	
升谷 耕介		医師	腎臓・膠原病内科部長	
馬場 康彦		医師	脳神経内科部長	
堀 輝		医師	精神神経科部長	
永光 信一郎		医師	小児科部長	
長谷川 傑		医師	消化器外科部長	兼務
佐藤 寿彦		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長	
前山 彰		医師	整形外科部長	
高木 誠司		医師	形成外科部長	
安部 洋		医師	脳神経外科部長	
和田 秀一		医師	心臓血管外科部長	
今福 信一		医師	皮膚科部長	
羽賀 宣博		医師	腎泌尿器外科部長	
四元 房典		医師	産婦人科部長	
内尾 英一		医師	眼科部長	
坂田 俊文		医師	耳鼻咽喉科部長	
高山 幸久		医師	放射線科部長	
秋吉 浩三郎		医師	麻酔科部長	兼務
近藤 誠二		歯科医師	歯科口腔外科部長	
鍋島 茂樹		医師	総合診療科部長	
瀨崎 慎		医師	病理部長	
小川 正浩		医師	臨床検査・輸血部長	
平井 郁仁		医師	内視鏡部長	兼務
高山 幸久		医師	放射線部第一部長	兼務
三浦 伸一郎		医師	放射線部第二部長	兼務
秋吉 浩三郎		医師	手術部長	兼務
長谷川 傑		医師	栄養部長	兼務
鎌田 聡		医師	リハビリテーション部長	
伊藤 建二		医師	血液浄化療法センター長	
吉田 陽一郎		医師	医療情報部長	
仲村 佳彦		医師	救命救急センター長	
四元 房典		医師	総合周産期母子医療センター長	兼務
白石 武史		医師	臓器移植医療センター長	
神村 英利		薬剤師	薬剤部長	
甲斐 純美		看護師	看護部長	兼務

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>患者・家族や地域住民向けの広報誌「福大病院パンフレット」を年に1回、「福大病院ニュース」を年4回程度発行している。また、病院公式HPも定期的に更新を行っており、当院の最新情報を発信している。連携医療機関や関連病院などに向けては病院の執行部や診療科毎の取り組みなど各医師の顔写真入り医師紹介冊子「診療各科・部医師紹介」を令和4年度から関連医療機関などに配付し、更なる連携を図っている。また、各種セミナーや各診療科などの最新情報をYouTubeやSNSを活用して積極的に発信しており、再生回数も伸びている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科 「消化器センター」→消化器内科、消化器外科 「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科 「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 「脳神経センター」→脳神経内科、脳神経外科 「小児医療センター」→小児科、小児外科 「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科 「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、形成外科 「もの忘れ外来専門センター」→精神神経科、脳神経内科 「心臓リハビリテーションセンター」→循環器内科、心臓血管外科 「摂食嚥下センター」→歯科口腔外科、耳鼻咽喉科 「最先端ロボット手術センター」→呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、消化器外科、腎泌尿器外科、産婦人科 「臓器移植医療センター」→呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、腎泌尿器外科、腎臓・膠原病内科、眼科</p>	